

早期からの継続した 教育支援体制の整備に関する研究

—小・中・高をつなぐ「引継ぎシート」の開発・試行を通して—

【研究の概要】

特別な支援を必要とする児童生徒等への支援は、乳幼児期から学齢期、成人期までの各ライフステージに応じて適切に実施されることと併せて、ライフステージを通じて途切れることなく一貫して行われることが必要である。そのためには、各校種間や保護者、関係機関等の情報共有・引継ぎを確実に進めていくことが重要である。本研究は、特別な支援を必要とする児童生徒の一貫性のある指導・支援のために、引継ぎを確実に進めるための仕組みを構築することにより、早期からの継続した教育支援体制の整備に資するものである。

キーワード： 継続した支援 引継ぎ 小学校・中学校・高等学校 保護者 関係機関

《研究協力機関》

盛岡市教育委員会

令和 2 年 3 月
岩手県立総合教育センター
教育支援相談担当
岩井 澤 通 代
外 館 梯

目 次

I	研究主題	1
II	主題設定の理由	1
III	研究の目的	2
IV	研究の目標	2
V	研究の見通し	2
VI	研究の構想	2
	1 研究についての基本的な考え方	2
	(1) 「早期からの継続した教育支援体制」について	2
	(2) 全国における「個別の教育支援計画」の取組に関する状況	3
	(3) 本県における「早期からの支援体制の整備」の取組に関する状況	4
	(4) 引継ぎにおける現状と課題	6
	2 研究の意義	6
	(1) 本県における進学時の引継ぎや情報共有についての現状	6
	(2) 全国における引継ぎに関する先行的な取組	7
	(3) 「引継ぎシート」を開発する必要性	8
	(4) 引継ぎにおける仕組みを構築する意義	8
	3 研究の手立て	9
	(1) 「引継ぎシート」の開発	10
	(2) 「作成・活用ガイドブック」の作成	11
	4 研究構想図	12
VII	実践・結果の分析と考察	13
	1 「引継ぎシート（案）」の開発	13
	(1) 「引継ぎシート（案）」の概要	13
	(2) 「引継ぎシート（案）」の内容	13
	(3) 「引継ぎシート（案）」の様式	14
	2 「引継ぎシート（案）」に係る意見調査	16
	(1) 目的	16
	(2) 調査対象（モニター校）	16
	(3) 調査期間	16
	(4) 調査方法	16
	(5) 調査内容	17
	3 「引継ぎシート（案）」に関わる調査結果及び考察	17
	(1) 現籍校（小学校6年生の担任を想定）の意見検討結果	17
	(2) その他の意見検討結果	20
	(3) 考察	22
	4 「引継ぎシート（改良版）」の作成	23
	(1) 「引継ぎシート（改良版）」作成の視点	23
	(2) 「引継ぎシート（改良版）」の様式	25
	5 「引継ぎシート（改良版）」・「作成・活用ガイドブック（案）」に係る意見調査	27
	(1) 目的	27
	(2) 調査対象（モニター校）	27
	(3) 調査期間	27
	(4) 調査方法	27
	(5) 調査内容	27
	6 「引継ぎシート（改良版）」に関わる調査結果及び考察	27
	(1) 小学校から進学先への引継ぎ（小学校6年生担任）	27
	(2) 小学校から進学先への引継ぎ（中学校1年生担任）	29
	(3) 中学校から進学先への引継ぎ（中学校3年生担任）	30
	(4) 中学校から進学先への引継ぎ（高等学校1年生担任）	32
	(5) 全体を通して	33
	(6) 「引継ぎシート」完成版の様式	33
	(7) 「作成・活用ガイドブック」による仕組みの理解	33
	(8) 活用への取組	34
VIII	研究のまとめ	35
	1 全体考察	35
	2 研究の成果	36
	3 今後の課題	36
IX	引用文献および参考文献	37
	巻末資料1	40
	巻末資料2	46

I 研究主題

早期からの継続した教育支援体制の整備に関する研究
—小・中・高をつなぐ「引継ぎシート」の開発・試行を通して—

II 主題設定の理由

平成 24 年 7 月に示された「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」における提言等を踏まえ、「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」（文部科学省，2013）において、個別の教育支援計画作成の重要性が明示された。その具体的施策として、個別の教育支援計画の作成・活用については、「早期からの一貫した支援のためには、必要に応じて関係機関が共有し活用していくこと」や「支援計画等を有効に活用しつつ障害のある児童生徒等に関する情報を一元化し引き継ぐなどの取組を進めていくこと」が示された。このように、障がいのある児童生徒等への支援は、乳幼児期から学齢期、成人期までの各ライフステージに応じて適切に実施されることと併せて、その支援が、ライフステージを通じて途切れることなく一貫して行われることが必要であり、情報の共有・引継ぎを確実に行っていくことが重要である。個別の教育支援計画を作成している幼稚園、小・中学校及び高等学校の達成状況は年々上昇している（文部科学省，2017）が、その活用が求められている現在、各学校における活用にはばらつきがあるのが現状である。このことについては、教育再生実行会議の提言（2016）において、「個別の支援情報に関する資料を作成し、進級、進学、就労の際に、その内容が適切に引き継がれる仕組みを整える」との現状改善の方向性が示されている。

本県では、いわて特別支援教育推進プラン（2013～2018）に基づき、特別支援教育の理解や指導・支援の充実に取り組んできている。岩手県教育委員会（2019）によると、平成 27 年度の各市町村における就学支援ファイル等の作成・活用の達成状況は 100%であり、同年度の幼稚園・各学校における個別の教育支援計画等の作成・活用の達成状況は 89.0%であった。このことから、卒業後を見据えた指導・支援や、取り組んできたことの引継ぎの大切さについては、理解が図られてきており、早期からの支援や卒業後を見据えた支援が広がってきているものと推察される。しかし、いわて特別支援教育推進プラン（2019～2023）策定に係る調査結果（岩手県教育委員会，2018）によると、進学時の引継ぎや情報共有ができているとする肯定的評価の割合が、小学校から中学校、高等学校へと進むにしたがって低下している現状がある。また、学校（園）長と保護者との肯定的評価の割合を比較すると、保護者の割合が学校（園）長の割合より低い傾向が見られることから、引継ぎに対する学校（園）と保護者との意識に隔たりがあることが明確になっている。その背景には、個別の指導計画・個別の教育支援計画の様式や記載内容が、対象児童生徒により異なっていること、必ずしもこれらを活用して、保護者と情報共有をしているものではないこと等の理由により、確実な引継ぎを行っていない学校が少なくないことが考えられる。また、次年度への引継ぎの在り方に関しても、引継ぎ内容やその方法、時間の確保等の課題があると考えられる。

これらの課題を改善していくためには、引継ぎ時における様式の見直しを図ることと併せて、校種間での引継ぎの仕組みを整えていく必要があると考える。対象児童生徒に必要な支援内容や進学先において必要な情報を取り入れた様式とし、進級・進学・就職等のライフステージが移った場合であっても、その情報を保護者と共有しながら、確実に引き継がれるための仕組みを構築することが不可欠となってくる。

そこで、本研究は、本県や各校の実情、小・中・高の各校種間に応じた「引継ぎシート」を開発するとともに、活用に資するガイドブックを作成し、全県への普及・活用へとつなげていくものである。なお、この研究は、いわて県民計画（2019～2028）、岩手県教育振興計画、いわて特別支援教育推進プラン（2019～2023）にその開発を位置付けており、「引継ぎシート」が進学先の学校において、必要な支援を継続的に行うための重要なツールとなることを目指している。

Ⅲ 研究の目的

特別な支援を必要とする児童生徒の継続した一貫性のある指導・支援のために、引継ぎを確実に行うための仕組みを構築し、早期からの継続した教育支援体制の整備に資する。

Ⅳ 研究の目標

各地域での先行的取組から、引継ぎに必要な項目や要素等を整理し、小・中・高の各校種間に応じた引継ぎシートを開発するとともに、シートを活用した適切な引継ぎの在り方を示したガイドブックを作成することを通して、各校種間における望ましい引継ぎの在り方を提案する。

Ⅴ 研究の見通し

- 1 いわて特別支援教育推進プラン（2019～2023）策定に係る調査結果をもとに、本県における課題を解決するための「引継ぎシート（案）」を開発する。
- 2 研究協力機関管内の各校の実情に応じて「引継ぎシート（案）」に対する意見調査を行い、調査結果を踏まえて、「引継ぎシート（改良版）」を作成する。
- 3 「引継ぎシート（改良版）」に対する意見調査から、「引継ぎシート」の活用への見通しや有効性について確認をし、「引継ぎシート」の完成を目指す。
- 4 「引継ぎシート」の活用や引継ぎにおける仕組みを構築するための内容等の研究成果を「作成・活用ガイドブック」としてまとめ、全県への普及へとつなげていく。

Ⅵ 研究の構想

1 研究についての基本的な考え方

(1) 「早期からの継続した教育支援体制」について

障がいのある子供に対する早期支援の重要性については、従来から指摘されてきたところである。就学前の時期は、子供が自律や社会性、コミュニケーション、認知において多くのことを学ぶ時期であり、就学後の学校での学習や集団生活の基礎を形成しうる時期である。それ故、障がいのある子供に対し、その障がいを早期に発見し、早期からその発達に応じた必要な支援を行うことは、その後の自立や社会参加に効果があると考えられる。また、早期からの支援は、障がいのある子供を支える家族に対する支援という意味でも重要である。

平成13年に文部科学省から公表された「21世紀の特殊教育の在り方（最終報告）」における「乳幼児期から学校卒業後まで一貫した相談支援体制の整備について」では、教育、福祉、医療、労働等が一体となって障がいのある子供及びその保護者等に対して相談や支援を行う体制を整備することを周知し、教育・発達相談の機会の充実を図ることが示されている。併せて、通常の学級の特例的な教育的支援を必要とする児童生徒の支援等に積極的に対応するよう言及している。

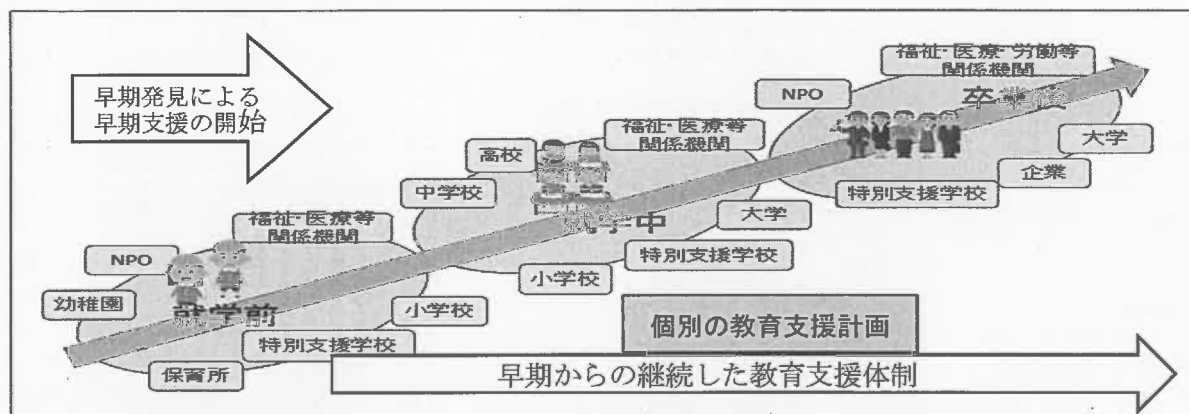
発達障がいのある子供の支援については、それまで障がいとしての認識が必ずしも一般的ではなかったことから、その発見や適切な対応が遅れがちであった。平成17年に施行された発達障害者支援法では、「障害の症状の発現後できるだけ早期に発達支援を行うことが特に重要である」と、発達障がいの早期発見と早期からの発達支援に必要な措置を講じることが明記された。この状況を踏まえ、国立特別支援教育総合研究所（2001）により、「発達障害のある子どもの早期からの総合的支援システムに関する研究」で、「発達障害者支援グランドデザイン」の提案を行っている。

平成18年度に改正された学校教育法では、幼稚園から高等学校までの全ての学校において、これまで特殊教育の対象となっている児童生徒に加え、発達障がいのある児童生徒に対し、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服するための特別支援教育を行うことが明記された。以後、平成24年7月に示された「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」における提言等を踏まえ、「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」（文部科学省、2013）では、①教育相談体制の整備、②個別の教育支

援計画等の作成，③就学先等の見直し，④教育支援委員会（仮称），の取組に対する周知が図られることとなり，個別の教育支援計画の作成について次のように述べられている。

早期からの一貫した支援のためには，障害のある児童生徒等の成長記録や指導内容等に関する情報について，本人・保護者の了解を得た上で，その扱いに留意しつつ，必要に応じて関係機関が共有し活用していくことが求められること。

個別の教育支援計画は，教育を含めた関係機関が連携し，地域で充実した生活を送ることができるよう，長期的な視点に立って支援を考えるための計画であり，障がいのある児童生徒の継続した一貫性のある支援・指導をしていくために必要な計画である。



【図1】個別の教育支援計画の策定に関する実際研究（国立特別支援教育総合研究所，2006の図を一部改変）

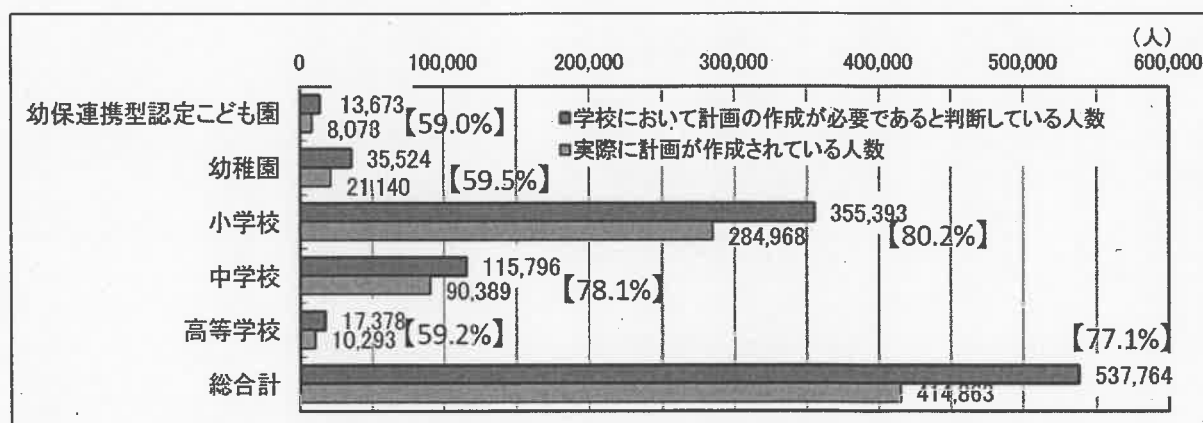
小学校学習指導要領（平成29年）において，児童の障がいの状態等に応じた指導の工夫について，「特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ，個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする」と示された。学校教育法第81条第1項では，幼稚園，小学校，中学校，高等学校等において，障がいのある児童生徒等に対し，障がいによる学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行うことが規定されており，障がいの種類や程度を的確に把握した上で，障がいのある児童生徒などの「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し，個に応じた様々な「手立て」を検討し，指導に当たっていく必要がある。障がいのある児童生徒について，全ての教師が障がいに関する知識や配慮等についての正しい理解と認識を深め，障がいのある児童生徒などに対する組織的かつ計画的な対応ができるようにしていくことが重要である。

(2) 全国における「個別の教育支援計画」の取組に関する状況

小・中学校学習指導要領・幼稚園教育要領（平成20年）及び高等学校学習指導要領（平成21年）においては，必要に応じて「個別の教育支援計画」を作成することが示された。平成29年3月公示の小学校学習指導要領の総則では「障害のある児童などについては，家庭，地域及び医療や福祉，保健，労働等の業務を行う関係機関との連携を図り，長期的な視点で児童への教育的支援を行うために，個別の教育支援計画を作成し活用することに努める」ことが示され，「特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童については，個々の児童の実態を的確に把握し，個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し，効果的に活用するもの」と明記された。この内容は中学校・高等学校の学習指導要領総則及び幼稚園教育要領総則にも同様に示された。このことにより，特別支援学級在籍の児童生徒や通級による指導を受けている児童生徒については，「個別の教育支援計画」を作成することと定められた。また，通常の学級において特別な支援が必要な児童生徒についても，作成・活用に努めることとなった。個別の教育支援計画の作成・活用により，①障がいのある児童生徒の教育的ニーズの適切な把握，②支援内容の明確化，③関係者間の共通認識の醸成，④家庭や医療，福祉，保健，労働等の関係機関との連携強化，⑤定期的

な見直し等による継続的な支援，などの効果が期待でき，その取組を推進していくことは，特別支援教育の理念の実現につながっていくものである。

文部科学省が平成 29 年度に調査した「特別支援教育体制整備状況調査」から，「個別の教育支援計画」の国公立を合わせた学校種別作成状況を抜粋したものが【図 2】である。これは，学校において教育上特別の支援を必要とする児童生徒等の支援のために計画の作成が必要と判断している人数のうち，実際に計画が作成されている人数の割合を示したものである。学校種別で見ると，幼保連携型認定こども園，幼稚園，高等学校の個別の教育支援計画の作成率は小学校，中学校と比較し低くなっていることが読み取れる。その要因の一つとして，発達障害者支援に関する行政評価・監視・結果に基づく勧告（総務省，2017）の調査報告の中で，「障がい児保育の認定基準から外れた発達障がい児について作成されなかったこと」が述べられており，作成が必要な児童であっても，作成されないケースがあったことを報告している。高等学校での作成率の低さについては，同調査で，「問題行動の度合いが高くない生徒には，支援計画及び指導計画を作成することとしていない」「支援計画及び指導計画の作成対象を，医師の診断がある生徒のうち，学校が必要と判断した生徒としている」ということを報告している。また，「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する連携支援事業（系統性のある支援研究事業）」（文部科学省，2015）の取組の中では，「学校設置者が異なることや入試を経る必要があることから学校間の連携が十分でなく，支援が途切れてしまう傾向」「引継ぎ仕組みが確立されていない」等の課題を指摘していることから，個別の教育支援計画そのものが引き継がれていないという可能性があるかと推測される。



【図 2】個別の教育支援計画の作成状況【国公立計】学校種別作成状況（文部科学省，2018）

(3) 本県における「早期からの支援体制の整備」の取組に関する状況

本県では，「いわて特別支援教育推進プラン（2013～2018）」に基づく早期からの支援体制の整備における取組の一環として，就学支援ファイル等の作成・活用に取り組んでいる。

就学支援ファイルとは，教育上特別な支援を必要とする幼児等を対象として，実態，保護者の願い，教育，福祉，医療等の支援を記録するためのファイル，就学先を検討する際の資料や引継ぎ資料として活用されているファイルである。市町村により，「就学支援ファイル」「就学支援シート」等，名称や形態が異なっている。

【表 1】は県内の市町村（一部地域を抜粋）の就学支援ファイルの取組について示したものである。県内にはこれらの就学支援ファイルを生涯にわたって活用している地域も数多くあり，個別の教育支援計画と同様に活用している場合もある。以下は，一部市町村における就学支援ファイルの引継ぎ期間や工夫した点についてまとめたものである。

【表1】市町村における就学支援ファイルの取組（岩手県教育委員会，2016）

市町村	名称	引継ぎ期間	工夫した点
宮古市	PASS (パス)	幼稚園・保育園から小学校 そして中学校へ	<ul style="list-style-type: none"> ・子供のプロフィール，生活の様子，こだわり等の情報のみでなく，子供に対して行った支援とその結果も記入するようにしている。 ・学習（音読，漢字，読解，作文，算数全般）について，到達学年の目安を記入するようにしている。 ・教育支援委員会への提出資料として，そのまま使えるようにしている。
花巻市	みらい手帳	乳幼児期から生涯にわたって	<ul style="list-style-type: none"> ・みらい手帳を配布した保護者に対して，アンケート調査を行い，活用方法についての勉強会を行っている。 ・活用の仕方の好事例パンフレットを作成し関係者に配付するなど，周知方法を工夫している。
北上市	相談支援ファイル	乳幼児期から生涯にわたって	<ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎに重点をおいたものに様式を見直している。 ・様式を適宜加工したり，各施設における指導（支援）計画や評価等を綴り込んだり，柔軟に対応できるファイルとなっている。 ・幼保から小学校への引き継ぎの際には，保護者同席のもとでファイルの引き継ぎを行うことを奨励している。 ・毎年，活用方法の説明及び活用状況調査結果報告の機会を年数回設定し，普及に努めている。 ・様式の作成や改訂，学習会の在り方など，普及啓発の取り組みについて協議を継続して行っている。
奥州市	おうしゅうサポートファイルぱれっと	乳幼児期から生涯にわたって	<ul style="list-style-type: none"> ・完成前に試行的に実際に何人かの保護者や支援者に記入してもらい，感想を聞いて必要な修正を行っている。 ・家庭生活の中で気づいたことや思い出に残ったこと，関係機関に伝えたい情報等を記入するようになっていく。

【図3】は盛岡市で活用している「就学支援シート」である。このシートは，盛岡市内に居住する幼児が，就学後の生活・学習を円滑にスタートすることができるように，保護者が幼稚園・保育所等と協力して作成している。幼稚園・保育園から小学校への就学時の際にこのシートを使用し，小学校から中学校への引継ぎに関しては，「個別の教育支援計画」を活用している。

その後の進学先である高等学校への共通した引継ぎに関するシートは作成されていない。

特徴的な取組の一つとして，盛岡市では，小学校から中学校へ進学する際に，保護者から子供の状況を伝えるための「情報提供シート」を活用している。

吉岡（2018）は，北上市と花巻市の就学支援ファイルを対象に，就学支援ファイルの導入時から約5年間の変遷を時系列の比較及び地域間の比較により調査分析している。成果として，保護者を含めた引継ぎが推奨されるなど様式や手続きレベルの整備が進んだことを示している。今後の課題としては，就学支援ファイルの記入の在り方や参照頻度の増加を期待していること，また，個人情報の開示について保護者の判断を支援する体制の強化を指摘している。さらに，情報の記録，引継ぎ等がどこにいて

【図3】就学支援シート（盛岡市）

も可能となるような支援体制の整備の強化を提起している。

このような県内の取組の様子から、早期からの教育支援体制の一つである就学支援ファイル等の作成・活用により、その体制づくりに成果が上がっていると感じられる。その一方、吉岡(2018)が指摘するように、情報の記録、引継ぎ等がどこにいても可能となるよう、就学支援ファイルや個別の教育支援計画等の引継ぎにおける支援体制の在り方について課題が残っていると考える。

(4) 引継ぎにおける現状と課題

卒業した発達障害児の個別の教育支援計画の進学先等に対する引継ぎの現状について、総務省の調査(2014)により、【表2】のことが明らかになっている。調査対象は一部地域を抽出したものである。

【表2】個別の教育支援計画の引継ぎ状況(総務省, 2014)

引継ぎ 状況	引き継がれていた人数(割合)		引き継がれていない人数(割合)	
	83人分(41.3%)		118人分(58.7%)	
引継ぎ率 (学校種別)	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
	46.7%	79.1%	14.7%	6.4%

調査結果から、個別の教育支援計画が作成されていたにもかかわらず、その引継ぎに関しては半数以上の人数が引き継がれていないという結果であった。また、引継ぎ率においては、中学校及び高等学校で特に低い傾向にあり、校種が上がるにつれて、引継ぎ率が下がることが示されている。個別の教育支援計画を引き継いでいない理由として、同調査の報告では、「口答での引継ぎ方法で対応が可能」「保護者の同意が得られない」等が挙げられた。また、中学校から高等学校への引継ぎについては、「仕組みが確立されていない」「合格発表からの短時間で引継ぎを行うことが難しい」等が述べられている。引継ぎが行われなかったことによる支障例として、「身体の不調を訴えた」「集団になじめない」等、対応が困難となったものが報告されている。

こうした中、発達障害者支援に関する行政評価・監視・結果に基づく勧告(総務省, 2017)では、切れ目のない支援を推進する観点から次のように述べている。

保育所・幼稚園から大学・就労先までの各段階において、発達障害児に対する必要な支援内容が文書により適切に引き継がれるよう、都道府県、市町村、都道府県教育委員会及び市町村教育委員会に対し、具体例を挙げて周知すること。

「障害のある児童生徒等に対する一貫した支援について(通知)」(文部科学省, 2013)の取組における教育支援体制の整備により、個別の教育支援計画は作成されているものの、その引継ぎ状況の調査結果から、引継ぎを確実にを行うための体制づくりが早急に求められていると言える。

2 研究の意義

(1) 本県における進学時の引継ぎや情報共有についての現状

【表3】は、「いわて特別支援教育推進プラン(2019~2023)」の策定に係る調査結果である。「学校では、進学時の引継ぎや情報共有ができていていると感じるか」という設問に対する肯定的評価の割合を示している。

【表3】「いわて特別支援教育推進プラン（2019～2023）」策定に係る調査結果
進学時の引継ぎや情報共有における肯定的評価の割合（岩手県教育委員会，2018）

	指導事務主管課長, 園長・校長	特別支援教育 コーディネーター	保護者・ 幼児児童生徒
公立幼稚園・ 認定こども園	100%	98.1%	90.7%
公立小学校	97.2%	98.1%	87.0%
公立中学校	97.5%	92.6%	87.7%
県立高等学校	90.8%	80.6%	85.1%

調査結果から、幼稚園・認定こども園における肯定的評価は100%に達しており、園の取組によって進学時における引継ぎや情報共有ができていていると思われる。しかしその一方で、高等学校特別支援教育コーディネーターについては、80.6%にとどまっている。また、進学時の引継ぎや情報共有ができていているとする肯定的評価の割合が、小学校から中学校、高等学校へと進むにしたがって低下している現状があり、学校（園）長と保護者との肯定的評価の割合を比較すると、保護者の割合が学校（園）長の割合より低い傾向が見られる。このことから、引継ぎに対する学校（園）と保護者との意識に隔たりがあることが読み取れる。背景には、個別の指導計画・個別の教育支援計画の様式や記載内容が、対象児童生徒により異なっていること、必ずしもこれらを活用して、保護者と情報共有をしているものではないこと、また、個別の教育支援計画は保護者の同意を得て引継ぐものであるが、進学先への情報提供が、本人にとって不利になるという理由から、確実な引継ぎを行っていない状況が考えられる。

同調査では、「就学から卒業までの一貫した支援の充実のために特に重要な項目」についての結果を示している。「幼稚園等、各学校における進学時の引継ぎや情報の共有に資する様式等の整備」の項目における割合は、小学校長 36.4%、中学校長 43.2%であるのに対し、高等学校長は 78.5%と割合が高くなっている。小学校から中学校、中学校から高等学校へ上がるにつれて、引継ぎにおける様式等の整備に必要性を感じていることが読み取れる。その背景には、前述した通り、中学校から高等学校段階については、学校設置者が異なることや入試を経る必要があることから、学校間の連携が十分でなく、支援が途切れてしまう傾向にあることが考えられる。このことから、確実に引き継ぐための様式の検討や引継ぐための仕組みを整備していくことが求められていると言える。

(2) 全国における引継ぎに関する先行的な取組

「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する連携支援事業（系統性のある支援研究事業）」（文部科学省，2015）の研究では、発達障がいの可能性のある児童生徒に対して行われている指導や支援の内容等を、その経緯も含めて、適切に進学先に引継ぐための手法について示している。【表4】は、引継ぎにおける課題を解決するために、引継ぎシートを開発した自治体の取組内容を抜粋したものである。

【表4】「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する連携支援事業（系統性のある支援研究事業）」
（文部科学省，2015） 引継ぎにおける課題と取組内容

主体	引継ぎにおける課題	取組内容
埼玉県 教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> 学校間の連携が十分でなく、支援が途切れてしまう傾向にある。 引継ぐ仕組みが確立されていない。 高等学校における教育支援計画の作成率が低い。 	<p><連携会議による学校間の情報共有></p> <ul style="list-style-type: none"> 進学時に引継ぐ内容項目や引継ぎを行う時期について検討した。 <p><中高引継ぎシートの作成・活用></p> <ul style="list-style-type: none"> 進学先で必要な情報を様式の項目に取り入れた中高引継ぎシートを作成した。

		<研修会の開催による教職員の理解促進> ・切れ目のない支援体制づくりについて教職員の理解促進を図った。
由利本荘市教育委員会 (秋田県)	・進学先への情報提供が、本人にとって不利になるという本人、保護者の不安が大きかったこと。	<引継ぎシートの作成> ・対象児童生徒の基本情報、進学先において指導や支援の手がかりとなる内容に重点をおいた。 ・保護者に記載内容を確認してもらい、同意を得るようにした。 <引継ぎガイドブック> ・引継ぐ内容項目や引継ぎを行う時期について記載した。
まんのう町教育委員会 (香川県)	・引継ぎの際の情報の一貫性や公平性に課題が見られた。	<引継ぎシートの作成> ・「個別の教育支援計画」の内容をもとに、「対人関係、コミュニケーション、生活リズム」等について記載項目に入れた。

これら事業の取組において、進学先への情報提供については、必要とされる情報が引き継がれていないという課題から、引継ぎシートを作成する際に、進学先において指導や支援の手がかりとなる内容項目に重点を置き作成している。従来使用していた個別の教育支援計画では引き継ぐことのできなかつた項目を取り入れ、新たな引継ぎシートを開発している。作成に負担感を感じる教員もいることから、シート開発にあたり、普段の指導内容を簡便に記入できるような工夫を取り入れた取組が見られた。

個別の教育支援計画の引継ぎに関しては、保護者の同意を原則としているが、進学先の学校への情報提供を躊躇する保護者も少なくないことから、引継ぎに関する保護者の了解を得てから情報提供をするという仕組みを整えた自治体も多く見られた。また、中学校在学時は、個別の教育支援計画の作成対象生徒ではなかったが、高校進学後に不適応をおこす生徒がいたことも明らかとなったことから、引継ぎに関する資料の作成の対象については、特別な支援を必要とする児童生徒だけではなく、様々な困難を抱えている児童生徒も視野に入れながら開発を進めることが必要であると考えられる。

(3) 「引継ぎシート」を開発する必要性

前述で明らかになった引継ぎにおける課題を解決するために、ライフステージが移った場合であっても、必要な支援内容が確実に引き継がれるための「引継ぎシート」を開発していく。この引継ぎシートは、支援の必要な児童生徒一人一人の状況を的確に把握するとともに、児童生徒の置かれた状況を保護者や関係機関で情報共有し、乳幼児期から学校卒業までを通じて継続した的確な支援を行うために、組織的・計画的に支援を行うことを目的とする。

支援が必要な児童生徒の抱える課題には様々な要因、背景があり、長期的な支援が必要である場合や一端支援が必要でなくなった後、再度支援が必要となる場合もあることが考えられるため、進級・進学先の学校で以前の情報が共有されることは重要であると考えられる。

また、入学時まで情報提供する機会がなく、進学先である高等学校にうまく適応できなかったことが原因で、入学後不登校になったり、自主退学したりする事例(福岡県教育委員会, 2018)も報告されていることから、進学先への確実な引継ぎがなされないことから生じる入学後の不適応に対しても、予防的な支援を提供することができるのではないかと考える。

(4) 引継ぎにおける仕組みを構築する意義

引継ぎにおける課題では、個別の教育支援計画が作成されていたにもかかわらず、その引継ぎ

に関しては、個別の教育支援計画が引き継がれていないこと、また、引継ぎ率においては、中学校及び高等学校で特に低い傾向にあり、校種が上がるにつれて、引継ぎ率が下がることが示された（総務省，2014）。また、各自治体においては、引継ぎにおけるルールが明確でないこと（大阪府，2015）が挙げられ、引継ぎを確実にを行うための仕組みを構築することが求められていると言える。

引継ぎにおける仕組みを構築することは、本人、保護者の安心と適切な支援を実施するための基礎的環境整備であり（「発達障害支援の地域連携に係る全国合同会議資料（三重県教育委員会，2017）」、保護者の要望に寄り添いながらも学校側から保護者に向けて積極的に支援をつなぐ有効性の手立て（市川，2011）が必要であり、その具体的な例として、個々への支援に焦点を当てた面談を実施するよう述べている。

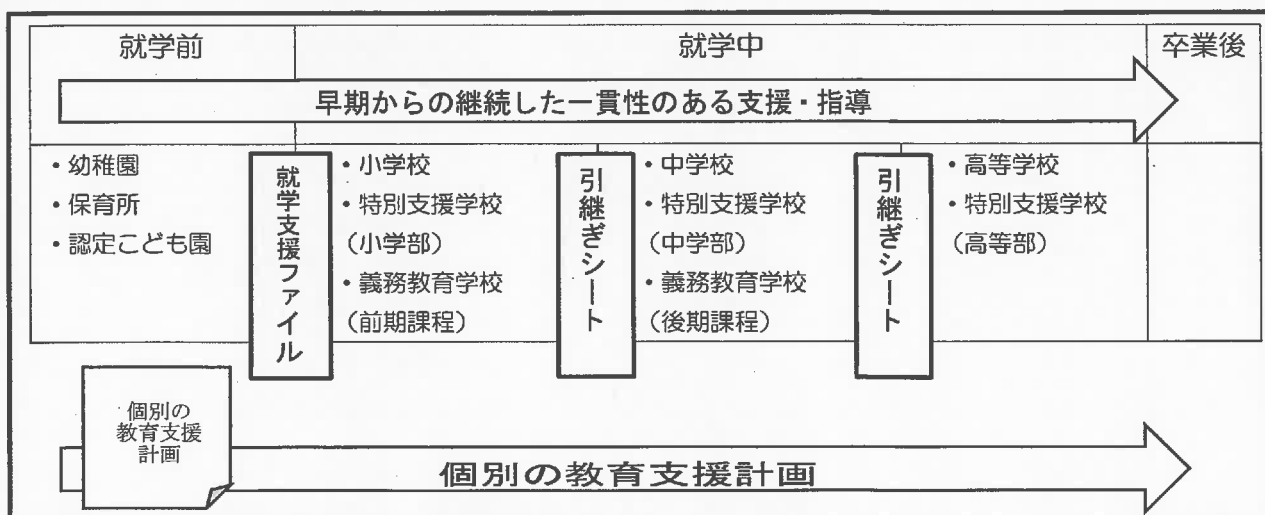
平成28年4月からは障がい理由とする差別の解消の推進に関する法律（以下、障害者差別解消法）が施行され、障がいのある児童生徒に対する合理的配慮の提供がいよいよ具体的な段階になった。それまで受けてきた支援の内容等の情報が、本人・家族と支援者との間で共有化されるとともに、その情報が次のライフステージに確実に引き継がれるような仕組みの構築の在り方を明確に示していく必要がある。学校における体制づくりに関して重視すべき内容について検討し、作成・活用のためのガイドブックとしてまとめ情報提供をすることは、教育現場の誤解や不安、混乱を取り除くとともに、引継ぎにおける仕組みづくりの考え方や目指しているものの理解を促し、学校における体制づくりの具体的な取組の方向性を示すことができると考える。

具体的には、「引継ぎシート」を作成・活用するに当たって、作成の手順や留意事項について理解しながら進めることができる資料や、「引継ぎシート」を活用した校内での取組、保護者や各関係機関との情報共有の方法やその具体等、引継ぎにおける仕組みの構築について示すことが必要であり、提示することで理解を促進することが可能であると考えられる。

3 研究の手立て

岩手県や全国における引継ぎの現状と課題から、進学時の引継ぎや情報提供における肯定的評価が低いこと（岩手県教育委員会，2018）、小学校から中学校、高等学校へ進むにしたがって引継ぎがなされていないこと（総務省，2014）、必要な情報が引き継がれないことにより、進学後の不適応が見られること（「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する連携支援事業（系統性のある支援研究事業（文部科学省，2015））」等の課題が明確になった。これらの課題を解決するため、2つの手立てによって研究を進めていく。

なお、早期からの支援体制の整備における取組の一環である就学支援ファイルについて、その作成・活用している市町村の割合は平成29年度の調査から100%（岩手県教育委員会，2018）であったことより、就学までの支援体制は整備されていると捉え、本研究では、【図4】で示すように、小学校から中学校、そして高等学校をつなぐ引継ぎシートについて開発を進め、引継ぎの仕組みを構築していく。



【図4】小・中・高をつなぐ仕組みの構築図

(1) 「引継ぎシート」の開発

引継ぎに関する課題を解決するために、各校の実態に合わせて活用できるもので、確実な引継ぎができるよう、以下の視点を取り入れた引継ぎシートの開発を進めていく。併せて、「引継ぎシート」の内容や開発から完成まで手順をア～ウとして示す。

- ・進学先において必要な情報を内容項目に取り入れたシートであること
- ・保護者と情報共有しながら作成するシートであること
- ・作成者にとって簡便に記入できるシートであること

引継ぎシート開発の際には、先行研究や文部科学省で示している様式等【表5】を参考にし、引継ぎシートの項目に取り入れていくことを検討していく。

【表5】「引継ぎシート」開発における参考内容・項目等

参考様式・文献等	目的・内容・項目等
個別の教育支援計画	長期的な視点で、乳幼児期から卒業までを通じて一貫した支援を行うことを目的として作成。幼児児童生徒とその保護者、教育、医療、福祉、労働等の様々な側面から支援するためのもの。
児童生徒支援・理解シート	児童生徒が支援の必要となった場合のほか、支援の必要な児童生徒の転入学があった場合に作成。不登校児童生徒、障がいのある児童生徒、日本語指導が必要な外国人児童生徒が対象となる。
県内の市町村の就学支援ファイル	引き継ぎに重点をおいた様式を作成している地域を参考にした。学校への引継ぎの際には、保護者同席のもとでファイルの引継ぎを行うことを奨励している。
特別支援学校学習指導要領「自立活動編」	人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するため必要な要素を、6区分27項目に整理したもの。
「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する連携支援事業（系統性のある支援研究事業）」	発達障がいの可能性のある児童生徒に対して行われている指導や支援の内容等を、その経緯も含めて、適切に進学先に引き継ぐための手法について、教育委員会が主体となって研究を行ったもの。中学校から高等学校への引継ぎに関して、個別の教育支援計画の見直しや引継ぎシートの開発等を行ったもの。
合理的配慮をつなぐ個別移行支援カルテ（坂本裕編著・明治図書）	岐阜大学教職大学院での開発実践報告による研究成果を中心にして構成したもの。進学先が在籍校から受け取りたい教育支援情報について、個別の教育支援計画等に関する項目や先行研究を参考にして項目を設定し調査したもの。項目について因子分析し、設定した因子負荷量に満たない項目は削除しシートを作成。

ア 「引継ぎシート」の内容

特別な教育的支援を必要とする児童生徒は、障がいのある児童生徒だけではなく、通常学級において教育的な支援を必要とする児童生徒も含まれる。それ故、多様な指導・支援が求められ、指導計画の様式についても複数作成していることが推測される。そのような状況から、中央教育審議会答申の中間まとめ「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」（文部科学省、2017）において、「児童生徒ごとに作成される計画については、学校や児童生徒の状況等に応じて複数の計画を一つにまとめて作成することで、業務の適正化を図るとともに、効果的な指導につながるべきである」との見解を示していることから、障がいのある児童生徒への複数ある支援

計画の様式について精査する必要があると考える。

引継ぎシートの作成における対象者は、特別な支援を必要とする児童生徒だけではなく、先行的取組の中でも課題であった進学後の不適応児童生徒等を予防するためにも、対象者の枠を広げていきたいと考える。

イ 「引継ぎシート（案）」に関する意見調査及び「引継ぎシート（改良版）」の作成

県内の小中高等学校の教員等を対象に、【表6】の視点で「引継ぎシート（案）」に記入してもらう。その後の意見聴取で出された意見を反映した「引継ぎシート（改良版）」を作成することによって、引継ぎシートの改善を図る。これらの段階を「試行」と位置付ける。小学校から中学校への引継ぎに関しては、過年度の卒業生（現中学校1年生）を想定し、中学校から高等学校への引継ぎに関しても同様に、過年度の卒業生（現高等学校1年生）を想定して、試行する。

【表6】「引継ぎシート（案）」における意見聴取の内容

研究協力機関	県内の小中高等学校
対象	特別支援教育コーディネーター 引継ぎに関わった教員等
試行期間	令和元年6月～
意見聴取の視点	1 項目について 2 記入の仕方について 3 その他

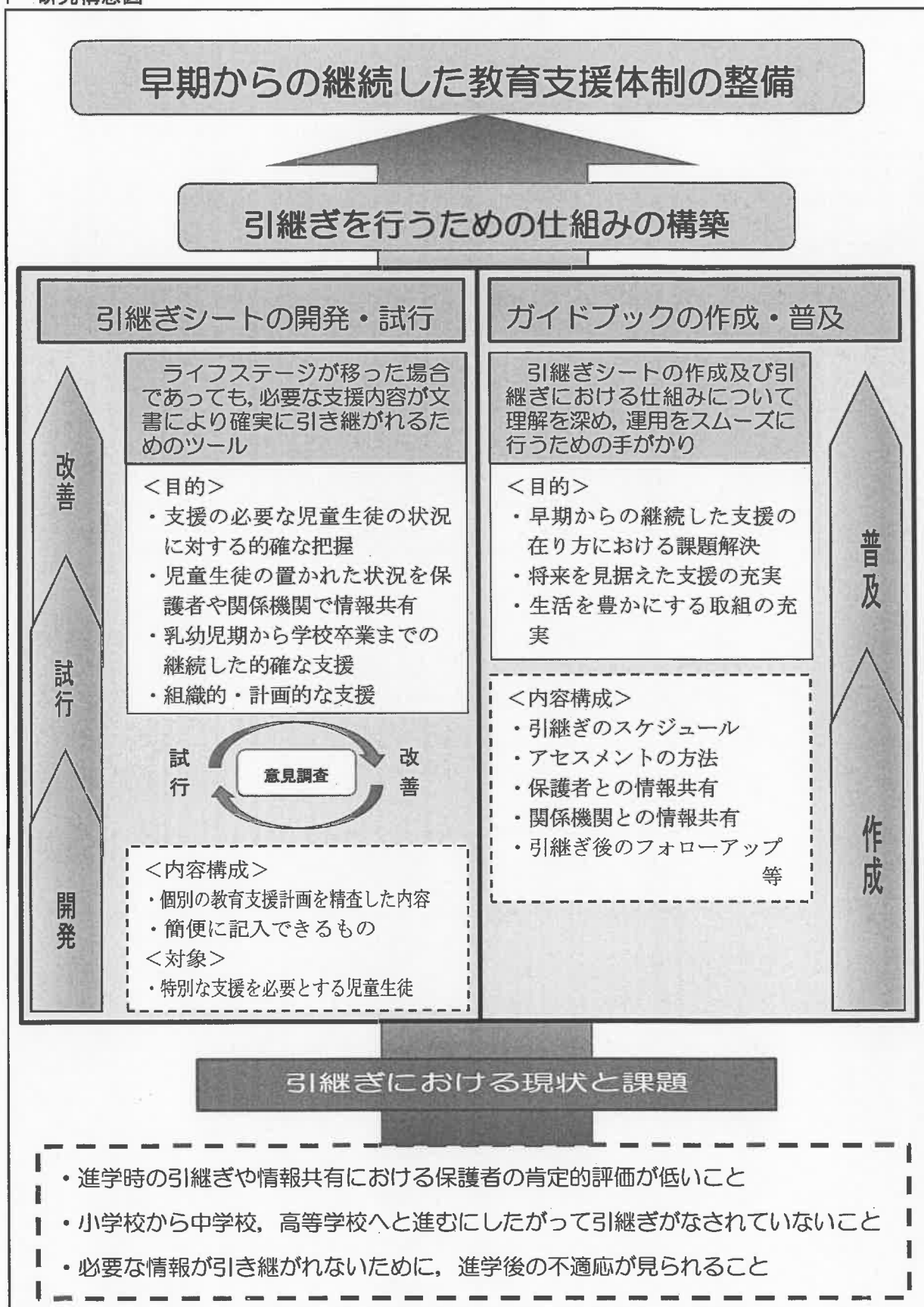
ウ 「引継ぎシート（改良版）」に関する意見調査及び「引継ぎシート」の完成

改善した「引継ぎシート（改良版）」では、「引継ぎシート（案）」の調査結果の反映状況や「引継ぎシート」の有用性等について意見聴取し、その意見を踏まえて「引継ぎシート」の完成を目指す。

(2) 「作成・活用ガイドブック」の作成

引継ぎシートの活用に関する意見調査を踏まえ、引継ぎシートの作成及び引継ぎにおける仕組みについて理解を深め、運用をスムーズに行うための手がかりになるものとしてガイドブックを作成する。ガイドブックの項目は、引継ぎのスケジュール、スクリーニングの方法、保護者・関係機関との情報共有、引継ぎ後のフォローアップ等で構成し、整理して示すことにより、引継ぎシートの作成及び引継ぎにおける仕組みについて理解し、作成や運用の進め方のイメージや見通しをもつことができるようにしていく。

4 研究構想図



【図5】研究構想図

Ⅶ 実践・結果の分析と考察

1 「引継ぎシート（案）」の開発

(1) 「引継ぎシート（案）」の概要

教育上特別な支援を必要とする児童生徒への支援内容や支援方法を就学予定の学校等に切れ目なく引き継ぐことにより、継続した一貫性のある指導・支援を行うための「引継ぎシート（案）」を作成した。引継ぎシートは、記入者にとって簡便に記載できることが大切であると考え、児童生徒の一次情報として必要な項目を1枚のシートにまとめた。ここでいう一次情報とは児童生徒の学習・生活面の概要を盛り込んだものであり、一次情報をもとに、現籍校からさらに必要な情報を共有することが可能であると考えた。

作成対象者は以下の通りである。

- 教育上特別な支援を必要とする児童生徒（診断の有無は問わない）
- ・通常の学級に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒
 - ・特別支援学級に在籍する児童生徒
 - ・通級による指導を受けている児童生徒

作成に当たっては、保護者の同意を得ることとした。学校と保護者が情報を共有しながら指導・支援を行うことは、学校における適切な指導内容や必要な支援方法を設定する上で重要であり、さらには、学校での取組や児童生徒の様子を保護者に理解を得る上でも重要なことと考えた。

(2) 「引継ぎシート（案）」の内容

内容は、以下の5項目である。項目名、そのねらいや記入の仕方を【表7】に示す。

【表7】「引継ぎシート（案）」の内容

	項目	ねらい	記入の仕方
①	児童生徒の概要	児童生徒の基本情報を共有し、進学先での支援に生かす。「興味・好きなこと」や「苦手なこと」、「本人の将来の希望」等を確認する。	児童生徒本人の基本情報を記入するもの。「家族関係の特記事項」には、本人の状態や支援内容を検討する上で必要な情報があれば記入する（例：家族構成、外国籍の保護者、家庭内使用言語等）。
②	保護者からの引継ぎ事項	保護者からの要望を理解した上で、指導・支援の方向性や具体の支援方法等を確認する。	保護者からの要望に該当する事項について、学習、生活、発達、健康等、当てはまる欄にチェックを入れる。「保護者の要望」の欄には、その事項についての要望等を記入する。
③	出席状況	教育上特別な支援を必要とする児童生徒の出席状況や学びの場の様子を確認する。	児童生徒が学習活動を行っている場所に当てはまる欄にチェックを入れる。出席日数等に数字を記入するとともに、欠席・別室登校がある場合には、理由・きっかけを記入する。
④	学习上・生活上の様子	児童生徒が学校生活において獲得・活用している内容を確認するとともに、教育上特別な支援を必要とする内容についても多面的に確認する。	学校での様子を記入する。あらゆる障がい種や児童生徒の状況に対応するために、特別支援学校学習指導要領「自立活動編」の自立活動の項目を参考に作成している。
⑤	学校での様子	在籍校での児童生徒の様子を一日の流れに沿って確認する。併せて、在籍校で行っている支援内容や配慮事項を確認する。	小学校から中学校への引継ぎに関しては、小学6年時の様子を記入する（中学校から高等学校の場合は、中学3年時）。保護者と確認している合理的配慮は、必ず記入する。

(3) 「引継ぎシート（案）」の様式

先行研究や文部科学省で示している様式や、上記要素を取り入れ開発した「引継ぎシート（案）」：小学校→就学予定の学校版を【図6】に示す。

「引継ぎシート（案）」は、小学校から就学予定の学校用、中学校から入学予定の学校用の2種類の様式を開発した。特徴的な項目として、「4 学習上・生活上の様子」では、あらゆる障がい種に対応するために、特別支援学校学習指導要領「自立活動編」の自立活動の6区分27項目を参考に作成している。中学校から入学予定の学校に引き継がれる「引継ぎシート」には、「5 学校での様子」の項目欄に「本人の支援継続希望」という記入欄を設けている。これは、中学校という発達段階を考慮して、本人にとって必要な支援の継続を必要としているか、本人や保護者の希望を確認するものである。本人が自分にとって必要な支援を認識した上で、入学予定の学校に引き継ぐことは、今後、合理的配慮の観点からも重要であると考えた。

取扱注意

引継ぎシート【小学校→就学予定の学校】

作成日：令和 年 月 日 学校名： _____ 小学校 校長： _____ 印
 作成者： _____ 印

1 児童についての基本情報 【担任・特支教育Co・養護教諭・その他()】

児童氏名		性別	生年月日	
ふりがな			年	月
氏名				日
関係医療機関		関係相談機関(者)・支援機関(者)		
病院名		機関名		
主治医		担当者		
診断名		相談時期		
診断時期		手帳の有無		
服薬(薬名)	有()・無()	有()・無()	<input type="checkbox"/> 身体障害	<input type="checkbox"/> 療育 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉
興味・好きなこと	1			
苦手なこと				
本人の将来の希望(進路含む)				
家族関係の特記事項				

2 保護者からの引継ぎ事項

学習 生活 発達 健康 その他()

保護者の要望

2

3 出席状況

教室 保健室・別室 適応指導教室 その他()

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
出席しなげばならない日数						
出席日数						
別室登校						
遅刻						
早退						
欠席日数						
欠席、別室登校がみられた理由・きっかけ						

3

- ① 児童の基本情報**
- ・ 児童氏名
 - ・ 生年月日
 - ・ 関係医療機関
 - ・ 関係相談機関
 - ・ 関係支援機関
 - ・ 興味、好きなこと
 - ・ 苦手なこと
 - ・ 本人の将来の希望
 - ・ 家族関係の特記事項

- ② 保護者からの引継ぎ事項**
- ・ 保護者からの要望に該当する事項(学習、生活、発達、健康等)にチェックする
 - ・ 保護者の要望を具体的に記述する

- ③ 出席状況**
- ・ 出席日数
 - ・ 別室登校
 - ・ 遅刻
 - ・ 早退
 - ・ 欠席日数
 - ・ 欠席、別室登校がみられた理由、きっかけ

【図6-1】「引継ぎシート（案）」：小学校→就学予定の学校版

4 学習上・生活上の様子（できているところにレを記入してください。全てできる児童は左の欄の「全てできる」にレを記入してください。できないところについては、項目の1・2・5の自由記述の欄に記入してください。）

<input type="checkbox"/> 生活リズムが整っている <input type="checkbox"/> 自分で食事ができる <input type="checkbox"/> 極端な偏食ではない <input type="checkbox"/> 自分で排泄できる <input type="checkbox"/> 衣服の調節ができる <input type="checkbox"/> 清潔の保持ができる <input type="checkbox"/> 病気や事故による状態を理解できる <input type="checkbox"/> 病気や事故による状態を自己管理できる <input type="checkbox"/> 健康状況に伴う困難さの状態や必要な支援について他者に働きかける <input type="checkbox"/> 健康に関する自己管理ができる
<input type="checkbox"/> 気持ちや情緒をコントロールできる <input type="checkbox"/> 状況に応じて心理的抵抗を軽減する <input type="checkbox"/> 困難さを理解し改善・克服しようとする
<input type="checkbox"/> 他者との関わりを好む <input type="checkbox"/> 他者の意図や感情を理解している <input type="checkbox"/> 場に応じた適切な行動をとる <input type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なことを理解している <input type="checkbox"/> 集団活動に参加できる <input type="checkbox"/> 集団行動ができる
<input type="checkbox"/> 視覚・聴覚・触覚・嗅覚等を活用できる <input type="checkbox"/> 自分の視覚・聴覚・触覚・嗅覚等の特徴を理解している <input type="checkbox"/> 機器や他の感覚を活用して自己の視覚・聴覚・触覚・嗅覚等の困難さを補う（※困難さがない場合もチェック） <input type="checkbox"/> 情報収集や周囲の状況を把握して判断や行動ができる
<input type="checkbox"/> 姿勢保持ができる <input type="checkbox"/> 上肢・下肢の運動や動作がスムーズである <input type="checkbox"/> 身体状況の維持・強化を図る <input type="checkbox"/> 補助的手段を活用して姿勢保持や運動・動作ができる（※困難さがない場合もチェック） <input type="checkbox"/> 身辺処理（食事・排泄等）や学習・作業のための基本的動作が身に付いている <input type="checkbox"/> 日常生活に必要な移動能力がある（※車椅子等の補助的手段を活用する場合は、右欄に記載すること）→（ ）
<input type="checkbox"/> 相手の意図を受け止める <input type="checkbox"/> 自分の考えを伝える <input type="checkbox"/> 事物や現象、自分の行動に対応した言語を身に付けている <input type="checkbox"/> 話し言葉を使ってコミュニケーションができる <input type="checkbox"/> 各種の文字・記号、機器、手話等を活用してコミュニケーションができる <input type="checkbox"/> 場や相手に応じたコミュニケーションができる

④学習上・生活上の様子

- ・健康
- ・心理
- ・人間関係
- ・環境
- ・身体
- ・コミュニケーション

特別支援学校学習指導要領「自立活動編」の自立活動の項目を参考に作成。

4

5 学校での様子

		指導形態	
		<input type="checkbox"/> 通常の学級	<input type="checkbox"/> 特別支援学級
		<input type="checkbox"/> 通級による指導	<input type="checkbox"/> その他（ ）
		様子等	支援内容・配慮事項
登下校時 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>			
授業中 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>			
学習以外の時間 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>			
集団場面 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>			
放課後 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>			
その他参考事項			

⑤学校での様子

- ・登下校時
- ・授業中
- ・学習以外の時間
- ・集団場面
- ・放課後（小学校）
- ・部活動（中学校）
- ・その他参考事項

5

この「引継ぎシート」をもとに、就学予定の学校と情報共有し、その後に就学予定校が前籍校、関係機関等に連絡を取り、学校生活に必要な情報を共有することに同意します。

令和 年 月 日

児童氏名

保護者氏名

印

作成に当たっては、保護者の同意を得ることとする。

5 学校での様子

		指導形態		
		<input type="checkbox"/> 通常の学級	<input type="checkbox"/> 特別支援学級	
		<input type="checkbox"/> 通級による指導	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
		様子等	支援内容・配慮事項	本人の支援継続希望
登下校時 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>				
授業中 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>				
学習以外の時間 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>				
集団場面 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>				
部活動				

⑤学校での様子：
【中学校→入学予定の学校】版

中学校での支援内容について、入学予定の学校でもその支援を希望するのか確認欄を設けている。

5

【図6-2】「引継ぎシート（案）」：小学校→就学予定の学校版

2 「引継ぎシート（案）」に係る意見調査

(1) 目的

「引継ぎシート」に必要な項目や要素等を実際に記入した上での意見を調査し、「引継ぎシート」の修正・改善に資する。

(2) 調査対象（モニター校）

調査に当たり、県内の小学校3校と中学校3校、高等学校2校のモニター校の協力を得て、以下の調査を行うこととした。なお、モニター校の概要を【表8】に示す。

【表8】意見調査におけるモニター校の概要

小 学 校			
学校	A 校	B 校	C 校
特別支援学級・通級指導教室等	知的障がい学級 自閉症・情緒障がい学級 ことばの教室 きこえの教室	知的障がい学級 肢体不自由学級 自閉症・情緒障がい学級	知的障がい学級 自閉症・情緒障がい学級
引継ぎ時における様子や考え	引継ぎ資料を作成しているが、それと併せて「引継ぎシート」を活用しながら引継ぎができると思う。医療機関の情報が詳細にほしい（診断の概要、医師からの助言等）。	中学校に引き継ぐ際、統一した項目であればよい。特別支援教育の視点を提示してもらえると、記入しやすいと感じている。	引継ぎ時に、個別の指導計画や就学に係る個票等の提出書類が多くあり、担任としては大変な作業であった。
中 学 校			
学校	D 校	E 校	F 校
特別支援学級・通級指導教室等	知的障がい学級 自閉症・情緒障がい学級 きこえの教室	知的障がい学級 自閉症・情緒障がい学級 きこえの教室 LD通級	知的障がい学級 自閉症・情緒障がい学級
引継ぎ時における様子や考え	特別な支援を必要とする通常学級在籍生徒の保護者から同意を得ることが難しい現状である。中学校区では、統一した引継ぎに関するシートがない。 様々な学校に進学するので、様式が1つでよいのか迷っている。	各市町村で取り組んでいる就学支援ファイルは非常に役立ったが、情報量が多く、活用面が難しさを感じていた。 個別の教育支援計画の様式を学校で考えていたところだった。	県で統一したシートがあれば、どの地域でも保護者と情報共有がしやすい。客観性のあるシートをいかに活用するかが大事である。小学校以前の情報もほしい場合もあった。
高 等 学 校			
学校	G 校		H 校
支援の必要な生徒の主な概要	発達障がいの疑い 肢体の機能障がい等		発達障がいの疑い 多様な困難さを抱えた生徒が多い
引継ぎ時における様子や考え	グレーの生徒について、中学校より情報を出してほしい。特別支援対象の生徒のみではなく、多様な困難さを抱える生徒に対して、引継ぎが行われれば良いと考える。		入学予定生徒についての情報を、各中学校を訪問して、聞き取り調査を行っている。担任によって、支援の視点が異なるので、統一したシートがあれば良いと考えている。

(3) 調査期間

令和元年7月中旬に調査対象とする学校に調査用紙を送付し、約1ヶ月間を調査期間とした。

(4) 調査方法

アンケート形式による意見調査を実施した。意見調査では、現籍校と進学先の2種類の立場別の調査用紙を作成し、実施した。

- ・「現籍校」・・・小学校6年生、中学校3年生の担任を想定し、「引継ぎシート（案）」へ実際に記入してもらう。記入後の感想について、意見調査を行った。
- ・「進学先」・・・中学校1年生、高等学校1年生の担任を想定して、下記に示す障がい種を想定した「引継ぎシート（案）」の記入例を用意し、その様式の情報項目について、意見調査を行った。

「引継ぎシート（案）」障がい種のサンプル

- ・ADHD ・知的障がい ・知的障がい境界域 ・睡眠障がい ・二分脊髄
- ・起立性協調性障害 ・吃音 ・LDの疑い ・運動機能障害（下肢）、移動機能障がい（下肢）
- ・通常学級での支援が必要と思われる児童（〇〇という困っている状況）

(5) 調査内容

引き継ぐ側への調査内容を【表 9】に、引き継がれる側への調査内容については、【表 10】に示すとおりである。

【表 9】現籍校への意見調査の内容：小学校 6 年生，中学校 3 年生の担任を想定

引き継ぐ側への調査内容	
問 1	「引継ぎシート（案）」を記入した後の全体を通しての感想
問 2	「児童（生徒）についての基本情報」についての意見
問 3	「保護者からの引継ぎ事項」についての意見
問 4	「出席状況」についての意見
問 5	「学习上・生活上の様子」についての意見
問 6	「学校の様子」についての意見
問 7	自由意見

【表 10】進学先への意見調査の内容：中学校 1 年生，高等学校 1 年生の担任を想定

引き継がれる側への調査内容	
問 1	「児童（生徒）についての基本情報」についての意見
問 2	「保護者からの引継ぎ事項」についての意見
問 3	「出席状況」についての意見
問 4	「学习上・生活上の様子」についての意見
問 5	「学校の様子」についての意見
問 6	全体を通しての意見
問 7	「引継ぎシート」は，一次情報として機能を果たしているか，具体的な支援を検討するきっかけにつながるものか。

「引継ぎシート（案）」における意見調査の視点として，以下の点を中心に調査を実施した。

- ・進学先において必要な情報を内容項目に取り入れていること
- ・簡便に記入できること

3 「引継ぎシート（案）」に関わる調査結果及び考察

(1) 現籍校（小学校 6 年生の担任を想定）の意見検討結果

意見調査では，現籍校（引き継ぐ側）と進学先（引き継がれる側）の 2 種類の立場別の調査を実施した。ここでは，現籍校（小学校 6 年生の担任を想定）の全調査結果を【表 11】に示す。調査結果の記述による回答について関連意見等を整理した結果，74 項目が収集された。回答結果のデータは，特別支援教育・教育相談を専門とする教育センター所員複数名で，各意見の検討結果を，「反映」と「その他」の二つの反映状況で整理した。「反映」の視点として，「引継ぎシート（改良版）」の作成に反映する意見，ガイドブックの記載内容に反映する意見の二つとした。各意見の反映における主な視点は以下のとおりである。なお，「その他」の反映状況とした意見は，「引継ぎシート」の項目名に対する意見や「引継ぎシート」の意図に対する意見についてである。

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| ・様式（記入欄の幅，体裁等）に関する事 | → 「引継ぎシート（改良版）」に反映 |
| ・項目の捉えが曖昧になる文章理解が不十分なもの | → ガイドブックに反映 |
| ・記入方法に関する事 | → ガイドブックに反映 |
| ・保護者の同意に関する事 | → ガイドブックに反映 |

なお，「引継ぎシート（案）」で実施した意見調査の質問項目で，「一次情報」という言葉を使

用していたが、「一次情報」の次に、「二次情報」「三次情報」という情報があるのかという誤解が生じたため、「引継ぎシート（改良版）」作成の際には、「基本情報」という言葉に統一して使用することとした。「基本情報」とは、保護者からの聞き取りや学校での観察等で得られた児童生徒の概要（学習面・生活面・行動面・対人面等）を整理した情報とする。

【表 11】意見検討結果一覧：現籍校（小学校6年生の担任を想定）

調査項目	意見	類似意見件数（件）	検討結果	改良版への反映状況
問1 「引継ぎシート（案）」を記入した後の全体の感想	「教育支援計画」や「個別の指導計画」の項目に工夫がなされているため、「引継ぎシート（案）」との重なりが多いのではないかと。	他2件	このシートは引継ぎに特化したシートであり、引継ぎの際に重要と思われる情報を基本情報として項目に盛り込んだため、他様式と項目が重複しています。	その他
	障がい重複していたり、課題がたくさんあったりする場合は書ききれないのではないかと。	他1件	「簡便なシート」というねらいのもと作成しています。記入例をガイドブックに示します。	反映
	一次情報の次には二次、三次と中学校等からの引継ぎを求められることになるのか。		「引継ぎシート」は保護者の同意を得て作成するものであり、現籍校に連絡を取ることについての同意も含んでいます。	その他
	現在でも要録等で行われていると思うので、わざわざ統一のシートにするメリットがもつと感じられるものになるとよい。		統一したシートであれば、その地域でも保護者と情報共有がしやすいと考えます。	その他
	特別支援の専門的な知識や経験がないので、どのような視点で記入したらよいのか判断に難しさを感じた。		特別支援教育の視点、記入方法や記入例をガイドブックに示します。	反映
	チェックはクリックだけでできるようにしてほしい。		入力方法について、円滑にできるよう整えます。（ワード版）	反映
問2 児童についての基本情報	主たる障がいについて、もう少し詳しく記入するところがあってもよい。	他3件	「1 児童についての基本情報」の「その他参考事項」の欄を設けました。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
	将来の希望は、児童によって記入が難しい。	他1件	「引継ぎシート」は全ての項目に記入するものでありません。該当するもののみ記入することとします。	その他
	本人の将来の希望は欄が多い。	他1件	他の項目の欄を広げ、「本人の将来の希望」の欄を少なくしました。	反映
	関係医療機関及び関係相談機関からの助言、必要な配慮事項（心理検査の結果から読み取れる特性等）の記入欄があった方がよい。		「1 児童についての基本情報」の「その他参考事項」の欄を設けました。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
	基本情報と基礎的な情報という言葉が混在しているが違いはあるのか。		基本情報に統一します。その他の言葉の混在については、精査していきます。	反映
	基本情報であれば、学業成績、友人関係、性格、問題行動などもあると、より基本的な児童の人物像が見えてくと思う。		基本情報として必要な情報を項目に盛り込んでいます。記入例をガイドブックに示します。	反映
	知的障がいのある児童生徒の場合、就学時の通知を書く欄がほしい。		現在の様子を基本情報と考えていますので、就学時の通知は「引継ぎシート」の項目には盛り込まないこととします。	その他
	相談時期は最新の行った日を書くか、心理検査等の日を書くか迷った。もしくは進学の就学について相談した日か、もしくはこれらの優先順位を知りたい。		相談時期の表記の仕方について、ガイドブックに示します。	反映
	担当者が複数の場合の記入例をガイドブックに示してほしい。		作成に関わる教職員が複数であっても、校内で1枚のシートを作成することとします。校内体制で複数の視点で作成していくことは必要なことですので、作成段階で話し合いながら記入することとします。	反映
	服薬について、複数の場合、欄がほしい。		2つ記入できるスペースを設けました。主たる薬品を記入するようガイドブックに示します。さらに必要な場合は、「関係医療機関」の「その他参考事項」に記入することも可能です。	反映
在籍について記入する欄がほしい。		「5学校での様子」に記入することとします。	その他	
問3 保護者からの引継ぎ事項	欄が狭く感じたので、改行の幅など調整したことから、もう少し広くした方がよい。		「簡便なシート」というねらいのもと作成しています。記入例をガイドブックに示します。	反映
	進路について、本人との相違があるかどうか分かっておいた方がよいので、項目として <input type="checkbox"/> 進路 を設けた方がよい。		「進路」につきましては、その他（ ）の欄に記入するようにします。ガイドブックに示します。	反映
	保護者の理解が得られず、保護者が策定に参画しない場合、引継ぎシート取扱はどうなるのか。		「引継ぎシート」の作成に当たっては、保護者の同意の下、作成することとします。引継ぎシート作成の意義について、保護者に説明できるようにガイドブックに示します。	反映
	保護者の要望が、児童本人や学校現場の実態と合っているかどうか分かるとよい。		「引継ぎシート」は保護者参画のもと、作成するシートなので、話し合いの中で情報共有をしていきます。保護者との情報共有の在り方について、ガイドブックに示します。	反映

問4	出席状況	要録に記入してあるので、引継ぎ資料として二度手間な感じがする。	他3件	出席日数・欠席日数の項目は、要録の項目と重複するので、その項目を削除しました。	その他
		遅刻、早退が多く、配慮事項として必要があるので、理由を記入したい。	他1件	「遅刻・早退」について、理由の項目に盛り込みました。	反映
		遅刻早退の2行を「遅刻／早退」として1行にまとめてもよい。		作成者の記入のしやすさを考え、2行とします。	その他
		「引継ぎシート」として重要な情報なので、「欠席、別室登校がみられた理由・きっかけ」の他に「その他」として登校時のパターン等も記載できるようにした方がよい。		登校時のパターンは、「5学校での様子」に記入することとします。	その他
問5	学習上・生活上の様子	内容項目が捉えづらい。できている基準が項目ごとに違った。	他5件	「自立活動」の内容項目を参考に作成しました。内容項目が具体的にイメージできるような文章に変更しました。ガイドブックに示します。	反映
		項目が多く、内容が重すぎる。	他1件	全ての障がい種に対応できるように、「自立活動」の内容項目を参考に作成しました。LDの児童生徒にも対応できる、記入例をガイドブックに示します。	その他
		作成時の入力について整えてほしい。	他3件	入力方法について、円滑にできるよう整えます。(ワード版)	反映
		項目を選択制にすることの意義が理解できない。項目は補助資料として、記載は文章表現の方がよいのでは。	他1件	児童生徒の概要を捉えるものであることと、簡便さの面から項目を選択制にしました。	その他
		単純知的障がい、LD児はあてはまる項目がない。		「引継ぎシート」は全ての項目に記入するものではありません。該当するもののみ記入することとします。	その他
問6	学校の様子	指導形態が特別支援学級の時、交流学級での様子を記入したい。	他3件	「授業中」の欄に指導形態をチェックできるようにしました。	反映
		保護者の理解を得るものとしては、教諭は正直書きづらい。保護者の印をつくのであれば、保護者自身が児童が困難としていることを書き、支援してほしい内容を記載するべきだと思う。	他2件	「引継ぎシート」は保護者と一緒に作成するシートです。学校と保護者が情報を共有しながら、今後の支援に活かしていくことができるよう作成することとします。	その他
		この項目のスペースを大きくしてもよいのではないか。	他1件	「簡便なシート」というねらいのもと作成しています。記入例をガイドブックに示します。	反映
		授業以外の時間に、登下校、放課後を含めて記載してはどうか。		学校での児童生徒の様子を一日の流れに沿って様子を把握するため、「登下校」「放課後」の項目を設けています。	その他
		集団場面と個別では様子が違う子もいるので、個別の場面を記入する欄があってもよい。		個別の場面についての表記は、「5学校での様子」の「その他参考事項」に記入してください。記入例をガイドに示します。	反映
問7	自由意見	作成時の入力について整えてほしい。	他4件	入力方法について、円滑にできるよう整えます。(ワード版)	反映
		各校の任されている「教育支援計画」や「個別の指導計画」、保健日誌、生徒指導カード、中学校から依頼される連絡カード等の重なりをどのようにしていくか		このシートは引継ぎに特化したシートであり、引継ぎの際に重要と思われる情報を基本情報として項目に盛り込んだため、他様式と項目が重複しています。	その他
		一次情報とある以上は、二次、三次等が想定されるが、それらの規定がないのであれば一次情報という言葉を使用すべきではない。		基本情報をもとに、現籍校に連絡を取ることができます。基本情報をもとに、現籍校に連絡を取ることについての同意も含まれています。	反映
		本人の将来の希望はあるが、保護者の将来の希望があってもよい		「2 保護者からの引継ぎ事項」に表記できるよう、ガイドブックに示していきます。	反映
		保護者の同意について、なぜ必要なのかと思った。		個人情報の収集は、本人や保護者からの直接収集が原則となります。趣旨についてガイドブックに示します。	反映
		シートでの引継ぎは、これまでの様々な実践でも作成するのにかかる時間に対する効果が薄い。		基本情報に絞っているのでも、最低限の時間で作成が可能。引継ぎシートの活用が円滑になされるよう、基本的な引継ぎの仕組みをガイドブックに示します。	反映
		保護者について、家庭の状況に配慮が必要な時、とても書きにくい。		保護者の同意を得ながら可能な範囲で記入していただくこととなります。	その他

調査結果【表11】から、「児童についての基本情報」では、医療機関や関係機関からの情報を詳細に欲しいという意見や、障がい種や診断名についての表記が必要であると感じている意見が多く挙げられた。「出席状況」では、指導要録に同様の内容を記載していることから、削除してもよいという意見が見られた。「学習上・生活上の様子」では、内容項目が捉えづらいため、記入の際に戸惑いを感じたという意見が多く挙げられた。「自由意見」では、保護者の同意欄の必要性について、疑問を感じている意見が多く挙げられた。

(2) その他の意見検討結果

進学先（中学校1年生の担任を想定した）の調査結果の回答を整理した結果、32項目が収集された。現籍校（中学校3年生の担任を想定）を整理した結果、26項目が収集された。進学先（高等学校1年生の担任を想定）を整理した結果、57項目が収集された。前述17頁に示した手続きと同様に、回答結果のデータは、三つの反映状況で整理した【表12】【表13】【表14】。調査結果の記述から、各校種で特徴的だと思われる調査項目を一部抜粋して示す。各校種の意見検討結果一覧は巻末資料1として示す。

【表12】意見検討結果一覧：進学先（中学校1年生の担任を想定） *一部抜粋

調査項目	意見	類似意見件数(件)	検討結果	改良版への反映状況
問1 児童についての基本情報	服薬はいつからなのか、また、薬品名()が小さすぎて複数あったときに入りきらない。学校に来てからの服薬のケースを知りたい。		「関係医療機関」の「その他参考事項」の欄を設けました。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
	医療や関係機関につながっていない場合があるので、その場合「疑い」という形で見立てて記入する欄があればよい。		「関係医療機関」の「その他参考事項」の欄を設けました。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
	家庭環境の欄を広く取り、準要、要保護は丸付けを付けたところがあれば参考になる。家族のことについては、教育的関心や経済状況、家族の状況も含めて別に項を設けてもよい。		家族の同意を得ながら可能な範囲で記入することとします。	その他
	生年月日の欄は、西暦なのか元号なのか、統一が良いと思った。		元号で記入することとします。ガイドブックに示します。	反映
	サンプルシート「下肢装具あり」とあるので、その部分に具体的な記載欄があるとよい。安全面での配慮する部分を記載する欄、事前に準備しておいてほしいことを記入する欄があるとよい。		「関係医療機関」の「その他参考事項」の欄を設けました。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
	本人の将来の希望①中学校生活、②中学卒業の進路希望、③就職(どんな仕事に就きたいか)の項目があった方が書きやすい。		記入内容の例については、ガイドブックに示します。	反映
問7 「引継ぎシート」は、一次情報として機能を果たしているか、具体的な支援を検討するきっかけにつながるものか。	一次情報として小学校が伝えたいことが伝わるかどうか。保護者の様子や家庭環境も知りたいところもある。		保護者の様子や家庭環境については、「1 児童についての基本情報」の「家族関係の特記事項」に記入することとします。	その他
	診断の有無を問わない時に、診断名がないのにこのシート作成に該当した保護者の納得が得られなければ、別シートで作成することになると感じた。		「引継ぎシート」の作成に当たっては、保護者の同意の下、作成することといたします。引継ぎシート作成の意義について、保護者に説明できるようにガイドブックに示します。	反映
	保護者の同意の記名と捺印が必要となると、あまり具体的に記入できない。一次資料としてならいいが、保護者には見せない資料についても、新入生を迎える時はほしいと思う。		「引継ぎシート」の作成に当たっては、保護者の同意の下、作成することといたします。引継ぎシート作成の意義について、保護者に説明できるようにガイドブックに示します。	反映
	なぜ、別室登校になったのかがこれだけでは分からない。別室や欠席が極端に多いわけではないととらえるので、これからに向けて、何が足りないのかが知りたいと思う。		別室登校や欠席については、「3 出席状況」の「欠席・別室登校がみられた理由・きっかけ」の欄に記入することとします。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
	長い文章だと、記入する側も、読む側も負担に感じる。		「簡便なシート」というねらいのもと、本シートを開発しています。	その他
	各校内での指導において、担任が年度毎に変わることが想定され、その引継ぎの際にも「校内版の引継ぎシート」が存在し、なおかつ、この「異校種間の引継ぎシート」と形式がリンクしているものだと、作成も活用もしやすいと感じた。		この「引継ぎシート」をもとに、「校内版引継ぎシート」を作成することも可能です。	その他

調査結果【表12】から、「生徒についての基本情報」では、医療機関や関係機関からの情報を詳細に欲しいという意見が挙げられた。「出席状況」では、指導形態に応じて、出席状況をどのように表記すればよいのか明確にして欲しいという意見が挙げられた。「学習上・生活上の様子」では、内容項目の程度が捉えづらいため、記入の際に判断を迷ってしまうという意見が挙げられた。「一次情報としての機能」「自由意見」では、保護者の同意欄の必要性について、疑問を抱く意見が多く見られた。

【表 13】意見検討結果一覧：現籍校（中学校3年生の担任を想定） *一部抜粋

	調査項目	意見	類似意見 件数(件)	検討結果	改良版への 反映状況
問 2	生徒についての 基本情報	複雑な家庭環境の家庭では、ジェノグラム 等で示すと見た目にも整理できると思う。 服薬の欄がもう少し広いといい。	他1件	保護者の同意を得ながら、可能な範囲で 記入することとします。 「関係医療機関」の欄に「その他参考事 項」という欄を設けました。記述内容の例 については、ガイドブックに示します。	その他
		専門機関が関わっているのであれば、そこ からの情報等を書く欄があるとよい。		「関係医療機関」の欄に「その他参考事 項」という欄を設けました。記述内容の例 については、ガイドブックに示します。	反映
		5項目をまとめた方がよいのではと思う。 例えば、学習場面、生活場面等。	他2件	児童生徒の様子を一日の流れに沿って 確認するため、5つの場面を設定しまし た。	その他
問 6	「学校の様子」	「学校での様子」というよりは「指導上の 配慮事項」とした方がよい。		学校での様子に対する配慮事項と考 えていますので、このような項目にしまし た。	その他
		「本人の支援継続希望」の欄は必要ではな いので、削除する方がよい。		中学校の発達段階から、自分自身にと つて必要な支援を自己認識し、その支援の継 続性を必要としているか、本人の希望を確 認するものです。	その他
		欄が小さいので、枠をもっと大きくする方 がよい。		「簡便なシート」というねらいのもと作 成しています。記入例をガイドブックに示 します。	反映

調査結果【表 13】から、「生徒についての基本情報」では、家庭環境について詳細に知りたいという意見が挙げられた。「学習上・生活上の様子」では、内容項目の情報量が多いという意見と、もっと具体的な様子が分かる内容項目の表記にして欲しいという意見が挙げられた。「学校の様子」では、学習場面をまとめた方が記入しやすいという意見が挙げられた。また、本人が支援を希望する欄の必要性はないという意見も挙げられた。「自由意見」では、保護者に対する別シートの必要性を感じている意見が挙げられた。

【表 14】意見検討結果一覧：進学先（高等学校1年生の担任を想定） *一部抜粋

	調査項目	意見	類似意見 件数(件)	検討結果	改良版への 反映状況
問 3	「出席状況」	別室登校の記述方法が曖昧。保健室・別室 にチェックした場合の出席日数と別室登校 の記入の仕方がわかりづらい。出席日数のな かに別室登校の分の日数を含むという趣旨 を書いた方がよい。	他3件	記入の仕方について、ガイドブックに示 します。	反映
		遅刻、早退が多く、配慮事項として必要が あって理由を記入したい。	他1件	重要な情報と考え、引継ぎシートに盛り 込みました。	反映
		場所を記入する欄がほしい。	他1件	「引継ぎシート」の項目に示していま す。	その他
		1年生の出席状況も記入した方がよい。		引継ぎ時の学年を記入するようお願い します。	その他
		保健室利用の際の様子を記入したい。		「5 学校での様子」に記入することと します。	その他
		欠席理由にも日数を入れた方がよい。		理由のみで記入する方向で考えていま す。	その他
		別室での指導内容を記入したい。		「5 学校での様子」に記入することと します。	その他
問 7	「引継ぎシ ート」は、一次情報 として機能を果 たしているか、 具体的な支援を 検討するきっか けにつながるも のか。	児童生徒や保護者の困り感、対象児童生徒 に対して、周囲の子供達の対応等知りたい。		「1 生徒についての基本情報」「2 保護者からの引継ぎ事項」に記入すること とします。	その他
		中学校側が認識していない生徒で支援を 要する生徒が見受けられるので、そのような 生徒の把握に時間がかかる 受験時に調査書に中学校がきちんと記入し、 高校に提出することを義務づけるとよいと 思う。		運用の仕組みについて、ガイドブックに 示します。	反映
		記入側の負担があるように感じる。内容を 活かしつつもう少し簡素なものにした方が よい。または、調査書を有効に活用できるよ うにした方がよい。		簡便な引継ぎシートを目指しており、生 徒の概要を把握する上で必要と思われる 情報を盛り込みました。	その他

調査結果【表 14】から、「引継ぎシート（案）」に対する肯定的な意見が多く見られ、「一次情報の項目としては活用できる」等の意見が挙げられた。「生徒についての基本情報」では、医療に関する情報について、「スペースが欲しい」、「もっと詳細な情報が欲しい」、という意見が多く挙げられた。「保護者からの引継ぎ事項」に関しては、より具体的な方がよいとのことだったが、保護者がどこまで情報を提供するかについて疑問を感じている意見も出された。「出席状況」に

について、別室登校の記述方法が曖昧であるという意見が挙げられた。「学習上・生活上の様子」は、チェックの仕方が曖昧であることや、教師の捉え方によって生徒の実態把握が異なるという意見が挙げられた。「一次情報としての機能」について、「学校で認識していない生徒に関する情報は欲しい」という意見が見られた。

(3) 考察

「引継ぎシート（案）」の意見調査【表 11】～【表 14】から、「引継ぎシート（改良版）」とガイドブック作成の方向性を得るために、「進学先において必要な情報を内容項目に取り入れていること」「簡便に記入できること」の検討を目的とし、現籍校と進学先それぞれの意見について考察する。

ア 「進学先において必要な情報を内容項目に取り入れていること」について

① 小学校から進学先への引継ぎ

現籍校（小学校 6 年生）の調査結果における記述では、「必要な項目が過不足なく入っている」という意見が見られた。その一方、「個別の教育支援計画や個別の指導計画との項目に重なりが多い」「この程度の引継ぎは要録等で行われている」等の意見が見られた。これは、引継ぎシートと個別の教育支援計画等の関係が理解されていないことと、引継ぎシートを作成することの意義が十分に伝わっていないことが要因と考えられる。よって、引継ぎシートと個別の教育支援計画等の他様式との関係性について、ガイドブックにて説明すると共に、引継ぎシート作成の意義について周知を図ることが必要であると考えられる。

出席状況に関する記述では、「指導要録との重なりがある」「遅刻や早退の理由を記述したい」という意見が見られた。前述した開発の視点（p. 10）が「作成者にとって簡便に記入できるシートであること」から、指導要録と重複する項目は削除し、引継ぎシート作成者の負担を減らしていく。一方、遅刻や早退の理由については、指導要録の項目にはないことから、これらの理由を記入することは、「進学先において情報」として捉え、新たに項目として挿入し、その記入方法については、ガイドブックで示していく。

進学先（中学校 1 年生）の記述では、「基本情報として十分である」という意見が見られた。一方で、「保護者の同意が得られないと、本当に伝えたい情報を具体的に記入できない」という意見があった。これは、情報を引き継ぐに当たっての保護者の同意を得る必要性が十分に理解されていないことと、学校での取組や児童生徒の様子について、保護者との情報共有がなされていないことが要因として考えられる。よって、引継ぎシート作成には、個人情報保護の観点から保護者の同意が必要であること、さらに、児童生徒の学校での様子や取組を、保護者と日常的に情報共有をした上で、指導・支援に活かすことが重要であることを示すことが必要であると考えられる。これをガイドブックに示していく。

② 中学校から進学先への引継ぎ

現籍校（中学校 3 年生）の記述では、「進学先を相談する時点で、このシートを活用したい」という意見が見られた。その一方、「様々な生徒に対応させるためには細かなくてもよい」「調査書と内容が重複している」という意見が見られた。これは、引継ぎシートの項目が様々な生徒の概要を捉える基本情報として十分に理解されていないことが要因として考えられる。今回開発した引継ぎシートでは、様々な生徒に対応させるために特別支援学校学習指導要領「自立活動編」の項目を参考に、内容項目を作成したことから、その内容の詳細な説明をガイドブックに示していく。

進学先（高等学校 1 年生）の記述では、「情報として期待できる」「必要な情報は十分入っている」「合理的配慮は必要なので、有効なシートである」等の意見が多く見られた。高等学校では生徒の基本情報を確実に得て、指導・支援に活かしたいと感じている教員が多くいることが明らかとなったことから、現籍校から情報が確実に引き継がれるよう、引継ぎの仕組みについてガイドブックで示していく。

③ 全体を通して

現籍校、進学先両者にとって、医療等の関係機関からの情報を詳細に欲しいという意見が多かった。関係機関からの情報は、進学先での支援・指導する上で重要であり、学校では関係機

関と連携を図りながら指導・支援を行いたいと考えていることがうかがえる。これらの意見を踏まえて、医療機関の項目に「その他特記事項」を新たに挿入し、関係機関からの情報を記載できるよう改善を図っていく。また、「学習上・生活上の様子」の項目内容が、曖昧で捉えづらいという意見が多かったことから、具体的な様子をイメージできるように説明を加えて修正を図っていく。

イ 「簡便に記入できること」について

① 小学校から進学先への引継ぎ

現籍校（小学校6年生）の調査結果における記述では、「児童の全体像を簡潔にまとめている」「引き継ぎたいことが簡潔にまとめられている」という意見から、ある程度の肯定的評価を得ることができた。その一方、「文字量が制限され、大雑把な表現になってしまう」という記述があった。これらの意見は、現籍校での丁寧な支援内容を確実に進学先に引継ぎたいという思いの表れであると捉える。引継ぎシート開発の視点として、「作成者にとって簡便に記入できるシートであること」から、その様式はA4判両面1枚のシートと考えている。簡潔な文章内容で児童の様子を的確に引き継ぐためには、日常的に実態把握を行うことが重要であることから、その実態把握の方法についてガイドブックで示していく。また、各項目の記入例をガイドブックに示すことにより、大まかな表現を改善できるのではないかと考える。

その他、「チェック項目が多い」という意見が見られた。簡便さをねらいとしているため、チェック項目にしたのであるが、項目数が多くなることによって、作成者への負担が増大することも明らかとなった。よって、チェックする項目数や項目内容について、より簡便に記入できるよう記入方法をガイドブックで示していくことで改善を図る。

進学先（中学校1年生）の記述では、「チェック方式だと記入しやすい」という意見が見られた。その一方、「長い文章だと読む側も負担になる」という意見もあった。これは、小学校6年生の記述と相反しているが、進学先にとっては、短く適切な文章で、チェック方式の理解のしやすさでの引継ぎを望んでいることがうかがえる。両方の立場での意見を参考にしながら、今後、「引継ぎシート（改良版）」の改善を図っていく。

② 中学校から高等学校への引継ぎ

現籍校（中学校3年生）の記述では、「内容や分量について適切である」という意見が見られた。その一方、「大雑把で何を記入すべきか分かりづらい」「もう少し簡潔なシートであればよい」という意見があり、ばらつきが見られた。回答者によって、記入内容のイメージが異なっていることから、ガイドブックにて記入例を示すことにより、「大雑把」「何を記入すべきか」の意見に対応できるものとする。

進学先（高等学校1年生）の記述では、「内容を活かしつつもう少し簡素なものにした方がよい」「記入側の負担があるように感じる」という意見が見られた。高等学校では、生徒の基本情報を確実に得て支援に活かしたいという思いがうかがえる。「出席状況」について、指導要録と重複する項目を削除する予定なので、簡素化されるのではないかとと思われる。

③ 全体を通して

「簡便に記入できる」というねらいであったが、内容や分量について適切であるという意見と大雑把すぎるという意見の相反する意見が出された。「引継ぎシート」作成の意義や記述内容、記入例をガイドブックに示していくことにより、「作成者にとって簡便に記入できるシートであること」になるよう理解を図っていくことが必要である。

4 「引継ぎシート（改良版）」の作成

(1) 「引継ぎシート（改良版）」作成の視点

「引継ぎシート（案）」に対する意見検討結果の分析と考察等を受け、以下の点【表15】を「引継ぎシート（案）」の修正・改善の視点としておさえ、「引継ぎシート（改良版）」【図7】の開発に当たった。

【表 15】「引継ぎシート（案）」の修正・改善の視点

項目	変更箇所	変更箇所の番号
シートの題名	【小学校→就学予定の学校】を【小学校版】と示す 【中学校→就学予定の学校】を【中学校版】と示す	①
1 児童（生徒）の概要	関係医療機関と関係相談機関・支援機関の欄を全体的に拡張する	②
	関係機関からの特記事項や助言等を記入できるよう「その他参考事項」の項目を挿入する	③
	「苦手なこと」の欄を全体的に拡張する	④
	「本人の将来の希望」の欄を縮小する	⑤
2 保護者からの要望	項目名「保護者からの引継ぎ事項」から「保護者からの要望」に変更	⑥
	チェック項目に「対人」欄を挿入	⑦
3 出席状況	指導要録と重複する項目（出席日数・欠席日数）を削除する	⑧
	保健室登校・適応指導教室登校を挿入する	⑨
	遅刻・早退の理由を記入できるように挿入	⑩
4 学習上・生活上の様子	各内容について、具体的な様子をイメージできるような表記に修正	⑪
	全てできる□を削除	⑫
5 学校での様子	【小学校版】において、本人の合理的配慮等の支援継続希望の欄を挿入	⑬
	授業中における指導形態の場面を選択できるようにする	⑭
保護者の同意欄	進学先の学校名や関係機関を記入できるよう【 】を挿入	⑮

変更箇所の番号と次頁「引継ぎシート（改良版）」の様式【図7】の番号が対応している。

(2)「引継ぎシート (改良版)」の様式

①

改良版	引継ぎシート (小学校版)	取扱注意
作成日: 令和 年 月 日	学校名: _____ 小学校	校長: _____ 印 作成者: _____ 印
1 児童の概要		【担任・特支教育 Co・養護教諭・その他()】

児童氏名		性別	生年月日	
ふりがな			年	月
氏名				日
関係医療機関		関係相談機関 (者)・支援機関 (者)		
病院名		機関名		
主治医		担当者		
診断名		相談時期		
診断時期		その他参考事項 ③		
服薬 (薬名)	有 ()・無 ()	有 ()・無 ()	手帳の所持状況	
その他参考事項 ③			<input type="checkbox"/> 身体障害者 <input type="checkbox"/> 療育 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉	
趣味・好きなこと				
苦手なこと				
本人の将来の希望 (進路含む)				
家庭関係の特記事項				

②

2 保護者からの要望				
<input type="checkbox"/> 学習	<input type="checkbox"/> 生活	<input checked="" type="checkbox"/> 対人 ③	<input type="checkbox"/> 発達	<input type="checkbox"/> 健康
<input type="checkbox"/> その他 ()				
⑦				

⑥

3 出席状況						
<input type="checkbox"/> 教室	<input type="checkbox"/> 保健室・別室	<input type="checkbox"/> 適応指導教室	<input type="checkbox"/> その他 ()			
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
保健室・別室 ⑧						
遅刻						
早退						
欠席 (遅刻・早退 別室 登校がめられた理由・きっかけ ⑩)						

⑧

⑨

【図 7-1】「引継ぎシート (改良版)」: 小学校版

4 学習上・生活上の様子（できているところにレを記入してください。困難さについては、項目の1・2・5の欄に自由に記入してください。）

健康	<input type="checkbox"/> 生活リズムが整っている <input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣（食事・睡眠・排泄）が身に付いている <input type="checkbox"/> 衣服の調節ができる <input type="checkbox"/> 清潔の保持ができる <input type="checkbox"/> 自分の病気の状態を理解できる <input type="checkbox"/> 自分の病気の状態を自己管理できる <input type="checkbox"/> 健康に関して自己管理できる <input type="checkbox"/> 健康状況に伴う困難さの状態や必要な支援について他者に伝えることができる
心理	<input type="checkbox"/> 情緒が安定している <input type="checkbox"/> 状況に応じて不安や緊張を軽減する <input type="checkbox"/> 自分の困難さの状態を理解したり、受容したりしている
人間関係	<input type="checkbox"/> 他者との関わりを好む <input type="checkbox"/> 他者の意図や感情を理解している <input type="checkbox"/> 場に応じた適切な行動をとる <input type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なことを理解している <input type="checkbox"/> 集団の中で状況に応じた行動ができる
感覚	<input type="checkbox"/> 自分の感覚を有効に活用できる <input type="checkbox"/> 自分の感覚の過敏さや認知特性について理解している <input type="checkbox"/> 補助機器を活用して自分の視覚・聴覚・触覚・嗅覚等の困難さを補っている <input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用して、的確な判断や行動ができる
身体	<input type="checkbox"/> 姿勢保持ができる <input type="checkbox"/> 上肢・下肢の運動や動作がスムーズである <input type="checkbox"/> 補助的手段を活用して姿勢保持や運動・動作ができる <input type="checkbox"/> 学習・作業のための基本的動作（書字・描画等）が身に付いている <input type="checkbox"/> 日常生活に必要な移動能力がある（※車椅子等の補助的手段を活用する場合は、右欄に記載すること）→（ ）
コミュニケーション	<input type="checkbox"/> 相手の意図を受け止める <input type="checkbox"/> 自分の考えを伝える <input type="checkbox"/> 事物や現象、自分の行動に対応した言語を身に付けている <input type="checkbox"/> 話し言葉を使ってコミュニケーションができる <input type="checkbox"/> 文字・記号、機器、手話等を活用してコミュニケーションができる <input type="checkbox"/> 場や相手に応じたコミュニケーションができる

12

11

5 学校での様子

指導形態		
場面	様子等	支援内容・配慮事項
登下校時 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>		
授業中 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> その他	
学習以外の時間 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>		
集団活動 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>		
放課後 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>		
その他		

本人の支援
継続希望

14

13

15

この「引継ぎシート」をもとに、【 】と情報共有し、その後に【 】が現籍校、関係機関等に連絡を取り、学校生活に必要な情報を共有することに同意します。

令和 年 月 日 児童氏名 _____
保護者氏名 _____ 印 _____

【図7-2】「引継ぎシート（改良版）」：小学校版

5 「引継ぎシート（改良版）」・「作成・活用ガイドブック（案）」に係る意見調査

(1) 目的

- ・「引継ぎシート（改良版）」が「引継ぎシート（案）」の調査結果を受けて、引継ぎにおいて活用できるものになっているか、意見を調査する。
- ・「作成・活用ガイドブック（案）」に必要な記述についての意見を調査し、「作成・活用ガイドブック」の作成に活かす。

(2) 調査対象（モニター校）

「引継ぎシート（案）」で協力を得た県内の小学校3校と中学校3校、高等学校2校とした。モニター校の概要については、p16【表8】に示したとおりである。

(3) 調査期間

令和元年10月中旬に調査対象とする学校に調査用紙を送付し、約1ヶ月間を調査期間とした。

(4) 調査方法

アンケート形式による意見調査を実施した。意見調査では、引き継ぐ側と引き継がれる側のどちらにも同じ調査用紙を作成し、実施した。

(5) 調査内容

調査内容については、【表16】に示すとおりである。

【表16】「引継ぎシート（改良版）」の意見調査の内容

問1	「引継ぎシート（改良版）」に対する全体を通しての感想
問2	「作成・活用ガイドブック（案）」に対する意見

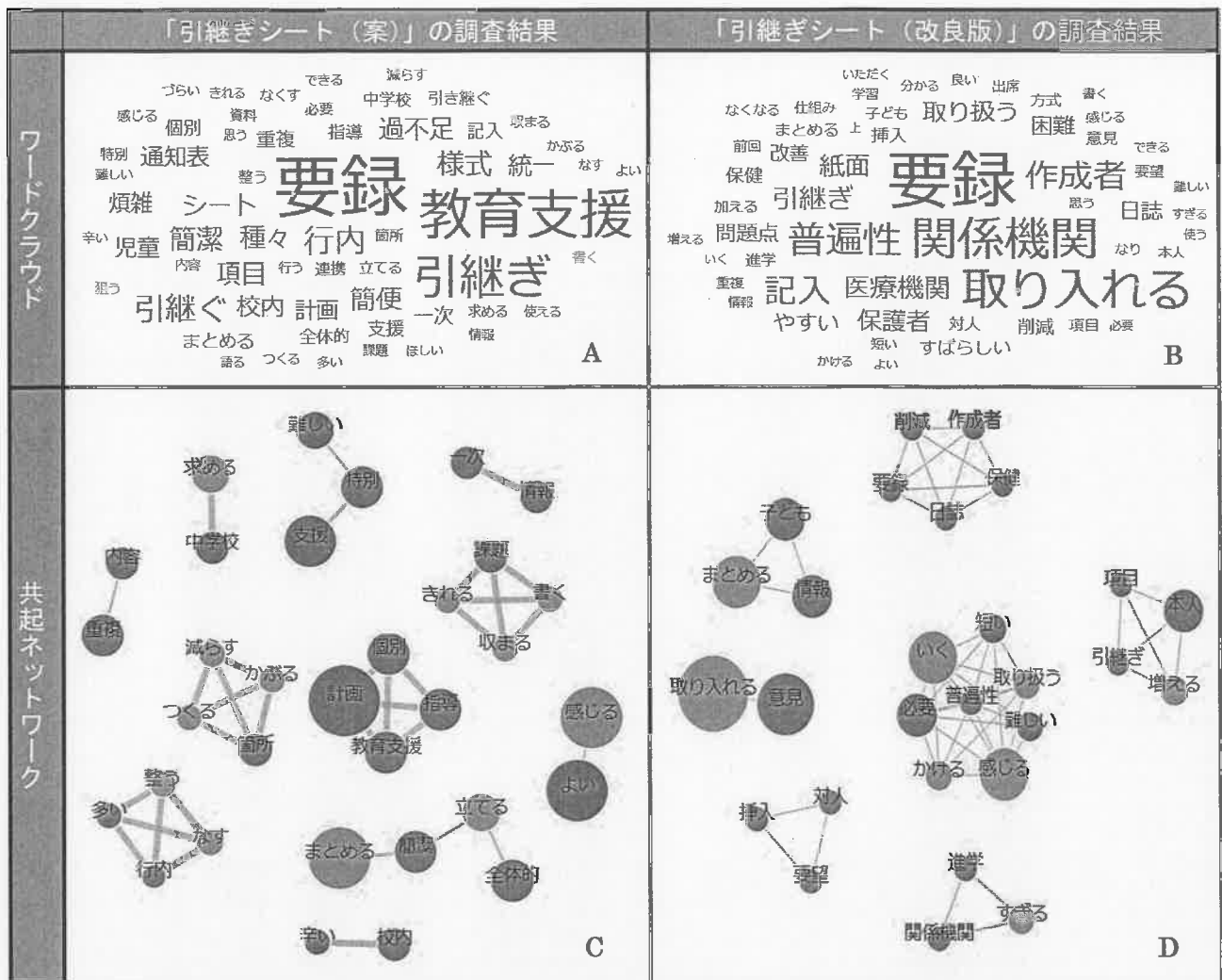
6 「引継ぎシート（改良版）」に関わる調査結果及び考察

(1) 小学校から進学先への引継ぎ（小学校6年生担任）

本調査でも、「引継ぎシート（改良版）」に対する感想を調査したことから、その記述内容について明らかにすることとした。「引継ぎシート（案）」と「引継ぎシート（改良版）」に対する感想について、自由記述にて調査を実施した。意見調査の記述に、言葉同士の組み合わせのもとで頻出度を見るために、テキストマイニングツールにて分析を行い、ワードクラウド、共起ネットワーク図によって可視化した。ワードクラウドは、出現回数の多い語が大きく表示される表現方法であるが、「一般的な文書でよく出る単語は、重要ではないため、重み付けを軽くする。一方、一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけによく出現する単語は重視する」⁽¹⁾ 仕組みを取り入れている。そこで、ワードクラウド分析では、言葉の頻出回数ではなく、言葉の出現の仕方について分析することにする。共起ネットワーク図は、出現回数の多い語句ほど大きく、また一文の中に同時に出現する回数が多い語句ほど互いに太い線が表示される表現方法である。ワードクラウド分析と共起ネットワーク図から「引継ぎシート（案）」と「引継ぎシート（改良版）」の感想を比較し、その変容を明らかにする。

【図8】は、小学校6年生の担任を想定した調査結果である。

(1) 「User Local AI テキストマイニング」より抜粋 <http://social.userlocal.jp/>



【図8】小学校から進学先への「引継ぎシート」に対する感想（小学校6年生担任）

ワードクラウド【図8】A・Bでは、「引継ぎシート (改良版)」の調査結果より、「やすい」という言葉が出現していることが分かる。この「やすい」は、「わかりやすい」「記入しやすい」「使いやすい」「まとめやすい」「書きやすい」という言葉の一部である。具体的な記述内容として、「学習上・生活上の様子項目の言葉や文章が分かりやすくなった」「関係医療機関（診断名等）記入しやすくなった」等が挙げられた。また、同様の結果では、「引継ぎシート (案)」の調査結果に表出しなかった「改善」「取り入れる」という言葉が出現している。「改善」の具体的な記述は、「改善されるべき点は改善された」の記述内容が、「取り入れる」の具体的な記述は、「意見を取り入れていただき、より活用しやすい内容になったと思った」「様々な意見を取り入れて、かなり改善されていると思った」という記述内容である。

共起ネットワーク【図8】C・Dの「引継ぎシート (案)」調査結果から、「かぶる」「減らす」という語のまとまりや、「重複」「内容」の語のまとまりが互いに強い線で結ばれており、要録との項目の重なりを指摘していることが分かる。「引継ぎシート (改良版)」では、「意見」「取り入れる」や「作成者」「削減」の語のまとまりが出現している。具体的な記述として、「要録や保健日誌等の重なりがなくなり、作成者の負担感の削減にもなると思った」「前回のものより、重複するところがなくなり充実した」という回答を得られ、基本情報の精選を図ったことが、高い評価につながったと考える。

「引き継ぎシート (改良版)」の調査結果から、「普遍性」という言葉が新出している。具体的記述として、「普遍性のあるものとして取り扱っていくことの難しさは感じるが、一度の完了でなく、数年かけて必要なことの見解を取り入れながら、アップデートしていく」ことが述べられおり、運用面での重要な視点であるので参考にしたい。

ワードクラウド【図10】A・Bの「引継ぎシート（改良版）」の調査結果より、「書ける」「やすい」「改良」という言葉が出現していることが分かる。具体的な記述内容として、「書きやすく、使いやすいシートへと改良がなされた」という意見が挙げられた。「引継ぎシート（案）」の調査結果で表出しなかった「保護者」という言葉が出現している。具体的な記述として、「保護者に聞かなければならない項目が多いこと」という記述内容である。日常的に保護者と連携し、引継ぎシートを作成することが重要であることから、保護者との連携や引継ぎシートの意義等について、ガイドブックで提示していく必要がある。

共起ネットワーク【図10】C・Dの「引継ぎシート（改良版）」調査結果から、「文例」「要望」「指導者」「自立活動」等の語のまとまりが互いに線で結ばれている。具体的な記述は、「対人関係（集団活動）を良好にするための要望や自立活動をうまく進めるための支援のような文例もあるとよいかと思う」という記述内容である。これまでは、様式の項目や記入欄についての感想が中心であったが、「引継ぎシート（改良版）」に対する意見では、進学先に引き継ぐ支援の内容について、より具体的で効果的な伝え方について意見をもらうことができた。修正・改善の視点として、ガイドブック作成の際に「〇〇をよくするための支援」という記入例を挿入し、進学先での支援の充実が図られるようにしていきたい。

- ・全体としては書きやすい。
- ・「3 出席状況」に欠席数が入っていた方がよい。支援学級の生徒で全欠の生徒もいるので。
- ・意見を取り上げていただきありがたい。
- ・記入しやすくなった。
- ・「5 学校での様子」に関わって、授業中の様子の内容で、場面の選択ができるようになったのはよい。
- ・スッキリして、全体が同じ大きさの時で書けそう。
- ・前は、Word だったと思うが、Excel であれば、書式を崩さず入力しやすいと思う。
- ・服薬は数種類を服用している生徒もいるので、「有」か「無」をチェックし、「有」の隣に少し広めに薬名を書くスペースを設けた方が書きやすい。
- ・保護者に聞かなければならない項目が多いことと、支援学校の高等部に進学の場合は教育相談個表や調査書等の内容と重複する項目が多いことも気になった。

(5) 全体を通して

「引継ぎシート（案）」の意見調査で得られた修正・改善の視点を生かし、「引継ぎシート（改良版）」を作成し、意見調査を実施した。調査結果から、このシートのねらいである「簡便に記入できるシート」、「進学先の学校において必要な情報が盛り込まれたシート」になっているという意見を多く得られた。また、「作成・活用ガイドブック（案）」を示すことによって、曖昧であった項目の捉え方が明確になったり、作成の手順や活用の在り方等を理解したりすることができたことが記述内容から読み取れる。

課題として、「引継ぎシート」作成における保護者の同意について、難しさを感じている教員が多いことが分かった。「作成・活用ガイドブック」において、保護者との情報共有について丁寧に提示し、学校や保護者に理解を促す必要がある。

(6) 「引継ぎシート」完成版の様式

モニター校から得られた2回の調査結果を踏まえ作成した「引継ぎシート」の完成版を【図12】に示す。全体像が示されている「引継ぎシート」の完成版は、巻末資料2として示す。

引継ぎシート【小学校版】 取扱い注意

作成日：令和 年 月 日 学校名： _____ 小学校 校長： _____ 印
作成者： _____ 印

1 児童の概要 【担任・特別支援Co・保護教諭・その他（ ）】

児童氏名		性別	生年月日			
よみがな	氏名		年	月 日		
関係機関機関 【保健師・医師（有）・支援機関（有）】						
病院名		機関名				
主治医		担当者				
診断名		担当科目				
診断時期		支援内容				
障害（案名）	有（ ）・無（ ）	子供の権利の状況				
その他参考事項		<input type="checkbox"/> 身体障害者	<input type="checkbox"/> 障害	<input type="checkbox"/> 精神保健福祉		
興味・好きなこと						
苦手なこと						
その他の特長（長所含む）						
本校関係の特記事項						
<input type="checkbox"/> 教室	<input type="checkbox"/> 保健室・別室	<input type="checkbox"/> 週別出席教室	<input type="checkbox"/> その他（ ）			
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
出席率・欠席・遅刻回数						
遅刻						
早退						
欠席・遅刻・早退・遅刻回数 遅退がもたらした理由・きっかけ						

4 学習・生活上の様子 【できているところにんを記入してください。困難さがない場合は、全てにんを記入してください。困難さについては、項目の1・2・3の欄に自由に記入してください。】

進歩	<input type="checkbox"/> 生活リズムが整っている <input type="checkbox"/> 基本的生活習慣（食事・睡眠・排泄）が身に付いている <input type="checkbox"/> 衣服の調節ができる <input type="checkbox"/> 清潔の保持ができる <input type="checkbox"/> 自分の病気の状態を理解できる <input type="checkbox"/> 自分の病状の状態を自己管理できる <input type="checkbox"/> 困難に際して自己管理できる <input type="checkbox"/> 経験状況に伴う困難さの状態や必要な支援について他者に伝えることができる
心身	<input type="checkbox"/> 情緒が安定している <input type="checkbox"/> 状況に応じて不安や緊張を軽減する <input type="checkbox"/> 自分の困難さの状態を理解したり、改善したりしている
人間関係	<input type="checkbox"/> 他者との関わりを好む <input type="checkbox"/> 他者の意向や感情を理解している <input type="checkbox"/> 場に応じた適切な行動をとる <input type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なことを理解している <input type="checkbox"/> 集団の中で状況に応じた行動ができる
環境	<input type="checkbox"/> 自分の感覚や身体が活用できる <input type="checkbox"/> 自分の感覚の過敏さや特性について理解している <input type="checkbox"/> 聴覚覚醒を促して自分の視覚・聴覚・触覚・嗅覚等の困難さを軽減している <input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用して、的確な判断や行動ができる
身体	<input type="checkbox"/> 姿勢保持ができる <input type="checkbox"/> 上肢・下肢の運動や動作がスムーズである <input type="checkbox"/> 補助的手段を講じて姿勢保持や運動・動作ができる <input type="checkbox"/> 学習・作業のための基本的動作（書き・読み等）が身に付いている <input type="checkbox"/> 日常生活に必要な行動能力がある <small>【日常生活上の困難さや特性の軽減や改善のために、支援を受けること（ ）】</small>
コミュニケーション	<input type="checkbox"/> 相手の意図を受け止める <input type="checkbox"/> 自分の考えを伝える <input type="checkbox"/> 事物や現象、自分の行動に對した言葉を身に付けている <input type="checkbox"/> 話し言葉を使ってコミュニケーションができる <input type="checkbox"/> 文字・記号、漢字、手話等を活用してコミュニケーションができる <input type="checkbox"/> 相手や相手に応じたコミュニケーションができる

5 学校での様子

	【特別支援】			
	<input type="checkbox"/> 通常の学級	<input type="checkbox"/> 特別支援学級	<input type="checkbox"/> 通級による指導	<input type="checkbox"/> その他（ ）
出席状況	出席	欠席	欠席理由・欠席回数	欠席理由・欠席回数
学習状況	学習中	学習中	学習中	学習中
学習以外の時間	学習中	学習中	学習中	学習中
出席状況	出席	欠席	欠席理由・欠席回数	欠席理由・欠席回数
その他参考事項				

この「引継ぎシート」をもとに、【 】と協議共有し、その後に【 】が現病状、関係機関等に連絡をとり、学校生活に必要な情報を共有することに同意します。

令和 年 月 日 児童氏名 _____ 印
保護者氏名 _____ 印

【図12】「引継ぎシート」完成版

(7) 「作成・活用ガイドブック」による仕組みの理解

「引継ぎシート」の様式の完成と同時に、「引継ぎシート」の引継ぎの仕組みについて構築していく必要があることは前述のとおりである。モニター校の調査結果から得られたガイドブック作成の参考になる視点や改善点に関する主な記述を踏まえ、「引継ぎシート」の作成及び引継ぎにおける仕組みについて理解を深め、運用をスムーズに行うための手がかりとなるよう「作成・活用ガイドブック」を作成した。

以下は、「作成・活用ガイドブック（案）」に対する意見調査結果の記述を示す。

- ・大変分かりやすくできていると感じた。
- ・シートの書き方や、特別支援に関する基本的考え方が、タイトルにまとめられており、使いやすい。記述することが具体的に想起できる。
- ・項目ごとに細かい説明があり、いいと思う。作成手順があるのも参考になる。
- ・保護者との話し合いの進め方については、より詳しく書いてもらおうとありがたい（保護者の了解を得られなかった場合等）。
- ・「引継ぎシート」の概要、活用、作成について詳細に説明がされており、支援のための「引継ぎシート」作成の重要性が理解できる。
- ・細かい部分もあるので良い。
- ・作成の仕方から、活用方法、支援計画まで分かりやすく整理されている。

これらの意見を踏まえ、以下の内容について、『「引継ぎシート」作成・活用ガイドブック』で取り上げ、引継ぎシートの作成及び引継ぎにおける仕組みについて理解を促し、活用を目指していく。

【表 17】「作成・活用ガイドブック」主な内容

「引継ぎシート」を作成する
<ul style="list-style-type: none"> ・「引継ぎシート」の内容 ・「引継ぎシート」作成の対象 ・保護者との情報共有 ・「引継ぎシート」の作成 ・「引継ぎシート」と「個別の教育支援計画」等との関係
「引継ぎシート」を活用する
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から中学校等への引継ぎについて ・中学校から高等学校等への引継ぎについて
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・Q&A



【図 17】「作成・活用ガイドブック」

(8) 活用への取組

「引継ぎシート」の作成を通して一貫した指導・支援を具現化するために、どのような時期に、どのような手順で作成するのかを明確にしておくことが必要である。そして、「引継ぎシート」を活用して、それぞれの指導形態の中でどのように指導・支援していくのかについても明確にしておくことが必要である。また、校内においては、保護者や各関係機関と情報を共有することが大切である。以下にその活用での具体的手順（例）を示す。

【表 18】「引継ぎシート」活用における具体的手順（例）

段階	内容	具体的な手順
作成前	本人・保護者との情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者で、日頃から情報共有を行い、保護者との関係づくりをする。 ・対象児童の支援の確認をする。
作成	校内委員会等を開き、中学校等への引継ぎが必要な児童を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・既に保護者の了承のもとに支援を行っている児童であるかを確認する。 <p><校内委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ①引継ぎが必要な場合の報告 (担任・特別支援教育コーディネーター) ②職員会議等で共通理解
	保護者と面談する。	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は、保護者との情報共有をもとに「引継ぎ

		シート」を作成する。 ・担任から保護者へ「引継ぎシート」をもとに学校生活の様子について伝える。 ・保護者の要望や今後の指導・支援の方向性、「引継ぎシート」の修正箇所等について確認する。
引継ぎ	保護者に「引継ぎシート」を進学予定の学校に提出することを確認する。	・これまで共有してきた「引継ぎシート」を進学予定の学校に提出することを担任と保護者との間で確認し、保護者から同意を得る。
	進学予定の学校に連絡し、引継ぎの日程を調整する。	・小中連携会議、小中引継ぎ会議等で引継ぎを行う。双方にとって都合がよよう調整する。
	担当者同士が面談し、支援情報を引き継ぐ。	・「引継ぎシート」をもとに、児童の基本情報を引き継ぐ。
引継ぎ後	進学先との情報交換 等	・必要に応じて、進学先の学校と情報交換を行う。

「引継ぎシート」の活用例としては、以下のことが考えられる。

場・会議等	内容
職員会議 校内委員会 学年会 支援会議	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での共通理解 ・本人や保護者との情報共有 (①支援内容の確認 ②支援内容の随時見直し) ・関係機関との情報共有 ・支援内容の検討 ・「引継ぎシート」を基にした「個別の指導計画」の作成 ・「個別の指導計画」を活用した指導・支援

上記のように、「引継ぎシート」の活用の取組について、具体的にガイドブックに示すことにより、各校種間で円滑な引継ぎが行われるものとする。

VIII 研究のまとめ

本研究は、特別な支援を必要とする児童生徒の継続した指導・支援のために、引継ぎを確実に行うための仕組みを構築し、早期からの継続した教育支援体制の整備につなげていくものであった。

継続した一貫性のある指導・支援を行うためには、「引継ぎシート」を作成し、保護者と情報を共有しながら支援内容や支援方法を進学先の学校へ切れ目なく引き継ぐことが必要と考え、その開発及び試行という手立てによって研究を進めた。また、引継ぎを確実に行うための仕組みを構築するためには、「引継ぎシート」の作成手順や作成時期、保護者との情報共有の方法やその具体について明示することが必要であると考え、「ガイドブック」作成という手立てによって研究を進めてきた。

以下、全体考察及び研究の成果と課題について示す。

1 全体考察

(1) 「引継ぎシート」開発及び試行について

「引継ぎシート」開発段階では、進学時の引継ぎや情報提供ができていないとする保護者の肯定的評価の割合が低い傾向があることから、現籍校で行われていた指導・支援を文書で確実に引継ぐための「引継ぎシート」を開発した。作成の際には、「進学先において必要な情報」「簡便なシート」の二つの視点で開発した。「引継ぎシート」試行段階では、モニター校の教員に試案を記入してもらうことで、前述した二点について、回答を得ることができた。様式の課題だけではなく、引継ぎの仕組みに関する課題等も明らかにすることができ、それらを修正・改善の視点として、「引継ぎシート（改良版）」開発の際に活かしながら作成することができた。「引継ぎシート（改

良版)」の意見調査から、「書きやすくなった」「必要な情報が盛り込まれている」「引継ぎシートを活用できそうだ」という肯定的な意見の回答が見られ、活用の見通しや有効性を得ることができたと考える。

この「引継ぎシート」を活用することで、個々の児童生徒についての情報が整理され、より深い児童生徒理解に基づいた支援が図られるのではないかと考える。また、これまで以上に学校全体に「継続した支援」という意識が定着し、引き継いだ支援を多くの教員と共有することによって、それぞれの教員の支援の手立ての幅が広がっていくのではないかと考える。

(2) 仕組みの構築について

県内には引継ぎに特化した統一したシートが無く、各校種間での引継ぎにおけるルールが明確でないまま情報共有が行われている状況があった。いわて特別支援教育推進プラン(2019~2023)策定に係る調査結果の課題で挙げられたように、今回、「引継ぎシート」に係る意見調査結果からも、各学校では保護者との情報共有について、難しさを感じていることが明らかとなっている。

「作成・活用ガイドブック」には、引継ぎにおける作成手順や活用の取組について具体的に示したことから、「引継ぎシート」の作成及び引継ぎにおける仕組みについて理解を促し、作成や活用面での取組における見通しをもつことができるのではないかと考える。また、引継ぎにおける保護者の情報共有の在り方についても具体的に示したことから、保護者が感じていた進学時における不安を少しでも払拭できるのではないかと考える。

今回、ガイドブックにて「引継ぎシート」の作成面・活用面について仕組みを整えたことから、今後は、「引継ぎシート」について県内に周知を図り、校種間での児童生徒の支援が確実に引き継がれていく仕組みについて理解を促していくことが必要である。現籍校で行われていた指導・支援が、「引継ぎシート」によって確実に引き継がれ、進学先の学校でも指導・支援の実施に生かされるようにしていくことが、早期からの継続した支援の整備につながると言えるのではないかと考える。

2 研究の成果

本研究の成果として、次の4点を挙げる。

(1) 「引継ぎシート(案)」の開発について

- ・いわて特別支援教育推進プラン(2019~2023)策定に係る調査結果、先行研究や文献等を参考にしたり、各学校の現状を踏まえたりしながら、引継ぎにおける作成面・活用面の課題を明らかにすることができ、基本構想としてまとめることができた。
- ・本県の引継ぎにおける課題を解決するための各校種間に応じた「引継ぎシート」を開発することができた。

(2) 「引継ぎシート(案)」意見調査及び「引継ぎシート(改良版)」の作成について

県内の小中高等学校8校のモニター校より協力を得た。モニター校の教員に「引継ぎシート(案)」の試行をしてもらい、「引継ぎシート(案)」記入後の意見について調査を実施することができた。調査結果をもとに、「引継ぎシート(改良版)」作成における修正・改善する視点を明らかにすることができた。

(3) 「引継ぎシート(改良版)」に対する意見調査及び「引継ぎシート」完成について

修正した「引継ぎシート(改良版)」について意見調査を実施し、「引継ぎシート」の活用への見通しや有効性について確認することができた。

(4) 「作成・活用ガイドブック」の作成について

意見調査を活かしながら、「引継ぎシート」の様式、内容、支援方法等の記述についての留意事項等についてまとめ、「作成・活用ガイドブック」として作成することができた。

3 今後の課題

現在、多くの学校で「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」等の様々な様式を作成しているが、作成されればよいのではなく、作成されたものが有効に活用されることが重要である。日頃から保護者との情報共有の時間が求められており、保護者と共に「引継ぎシート」を作成しながら、現籍校で有効であった具体的な指導・支援の内容が進学先等に引き継がなければならない。さらに、

「引継ぎシート」を基に、進学先で「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」等を作成し、進学先で個々の実態に応じた指導・支援の実施に活かされるようにしていくことが必要である。

今回は、試案の試行のみであったが、実際に活用され始めた時の「引継ぎシート」の在り方について、さらに検討していく必要がある。また、「作成・活用ガイドブック」が引継ぎシートの作成や活用への取組について有用なものであるか、さらに検討していく必要があると考える。

<おわりに>

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきましたモニター校の先生方、盛岡市教育委員会の皆様に心からお礼を申し上げます。

IX 引用文献及び参考文献

【引用文献】

- ・岩手県教育委員会 (2018), 『いわて特別支援教育推進プラン (2019～2023) 策定に係る調査結果』
- ・岩手県教育委員会 (2019), 『いわて特別支援教育推進プラン (2019～2023)』
- ・岩手県教育委員会 (2016), 『支援ファイルの活用好事例』
- ・大阪府 (2015), 『支援者のための発達障がいのある方のための支援の引継等に関する手引き』, p. 1
- ・総務省 (2014), 『個別の教育支援計画の引継ぎ状況』
- ・総務省 (2017), 『発達障害者支援に関する行政評価・監視・結果に基づく勧告』, p. 24, p. 32
- ・三重県教育委員会 (2017), 『発達障害支援の地域連携に係る全国合同会議資料』
- ・盛岡市教育委員会 (2013), 『就学支援シート』
- ・文部科学省 (2017), 『小学校学習指導要領』, p. 106
- ・文部科学省 (2008), 『小学校学習指導要領解説総則編』, p. 77
- ・文部科学省 (2017), 『中央教育審議会答申の中間まとめ』
- ・文部科学省 (2015), 『発達障害の可能性のある児童生徒等に対する連携支援事業 (系統性のある支援研究事業)』, p. 1, p. 133, p. 219
- ・文部科学省 (2008), 『幼稚園教育要領解説』, p. 192
- ・福岡県教育委員会 (2018), 『特別支援教育推進ガイド～一人一人が輝く共生社会の実現を目指して～』, p. 85
- ・吉岡昌子 (2018), 『障がいがある個人の持続的連携支援に向けた情報移行ツール運用の5年間の経過報告ー岩手県北上市・花巻市を対象としてー』, p. 46, 立命館文学 (655)

【参考文献】

- ・市川潤一 (2011), 『校種間・学年間における効果的な引継ぎについてーつながりのある支援の実現を目指してー』, 神奈川県立総合教育センター長期研究員研究報告 9
- ・一関市教育委員会 (2015), 『就学支援の手引き』
- ・岩手県 (2019), 『いわて県民計画 (2019～2028)』
- ・岩手県教育委員会 (2019), 『岩手県教育振興計画』
- ・岩手県教育委員会 (2012), 『「個別の教育支援計画」の作成と活用』
- ・岩手県教育委員会 (2019), 『平成 31 年度 学校教育指導指針』
- ・越中康治他 (2015), 『テキストマイニングによる授業評価アンケートの分析ー共起ネットワークによる自由記述の可視化の試みー』, 宮城教育大学 情報処理センター研究紀要第 22 号
- ・倉持祉斗 (2011), 『学校不適応児童生徒を継続的に支援していくための引継ぎと受け入れの在り方ー児童生徒のアセスメントに生かせる「児童生徒支援引継ぎシート」の作成ー』, 千葉大学教育学部研究報告 5
- ・高知県教育委員会 (2013), 『発達障害等のある幼児児童生徒の支援をつなぐ 就学時引き継ぎシート (例)・支援引き継ぎシート (例)』
- ・国立特別支援教育総合研究所 (2001), 『発達障害のある子どもの早期からの総合的支援システムに関する研究』
- ・小林祐司, 寺田充伸, 佐藤誠治 (2012), 『テキストマイニングを活用したアンケートによる自由回答

の分析と生活環境評価, 日本建築学会計画系論文集第 77 巻第 671 号, pp. 85~93

- ・坂本裕 (2017), 『合理的配慮をつなぐ個別移行支援カルテ』, 明治図書
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 (2016), 『インクルーシブ教育システム構築のための体制づくりに関する研究』
- ・兵庫県教育委員会 (2017), 『特別な支援が必要な生徒のためにー中学校から高等学校への支援の引継ぎの手引きー』
- ・文部科学省 (2009), 『高等学校学習指導要領』
- ・文部科学省 (2009), 『高等学校学習指導要領解説総則編』
- ・文部科学省 (2017), 『高等学校学習指導要領』
- ・文部科学省 (2016), 『児童生徒理解・支援シート』
- ・文部科学省 (2008), 『小学校学習指導要領』
- ・文部科学省 (2017), 『小学校学習指導要領』
- ・文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領』
- ・文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領解説総則編』
- ・文部科学省 (2017), 『中学校学習指導要領』
- ・文部科学省 (2018), 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚園部・小学部・中学部)』
- ・文部科学省 (2017), 『21 世紀の特殊教育の在り方 (最終報告)』
- ・文部科学省 (2017), 『発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン~発達障害等の可能性の段階から, 教育的ニーズに気付き, 支え, つなぐために~』
- ・文部科学省 (2017), 『幼稚園教育要領』
- ・山下公司 (2010), 『通常学級で特別な支援が必要な児童への支援の導入と引き継ぎに関する研究ー「個別の引き継ぎ書」の開発とそれを活用した新しい支援モデルの提案ー』, 特別支援教育コーディネーター研究 6 号 (2010 年 3 月) pp. 65-71
- ・山梨県教育委員会 (2013), 『全ての学校 (園) で活用できる特別な教育的支援を必要とする子どもたちのための学校間連携ガイドブック』

【引用 Web ページ】

- ・教育再生実行会議 (2016), 『全ての子どもたちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ (第 9 次提言)』
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/dai37/siryoul.pdf> (平成 31 年 4 月 4 日閲覧)
- ・厚生労働省 (2005), 『発達障害者支援法』
<https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0412-1b.html> (平成 31 年 4 月 4 日閲覧)
- ・文部科学省 (2013), 『学校教育法の一部改正について (通知)』,
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1339311.htm (平成 31 年 4 月 11 日閲覧)
- ・文部科学省 (2016), 『学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の公布について (通知)』,
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1387824.htm (平成 31 年 4 月 11 日閲覧)
- ・文部科学省 (2012), 『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 (報告)』,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm (平成 31 年 4 月 4 日閲覧)
- ・文部科学省 (2005), 『特別支援教育を推進するための制度の在り方について (答申)』,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/09/2/1212704_001.pdf (平成 31 年 4 月 4 日閲覧)
- ・文部科学省 (2013), 『障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について (通知)』,
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340331.htm (平成 31 年 4 月 11 日閲覧)
- ・文部科学省 (2018), 『平成 29 年度特別支援教育体制整備状況調査結果について』,
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/_icsFiles/afieldfile/2018/06/25/1402845_02.pdf (平成 31 年 4 月 20 日閲覧)
- ・User Local AI テキストマイニング

<http://social.userlocal.jp/> (令和元年11月11日閲覧)

【参考 Web ページ】

- ・岩手県教育委員会 (2013), 『いわて特別支援教育推進プラン (平成25年度～平成30年度)』
http://www.pref.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/017/059/plan_h25_h30.pdf
(平成31年4月5日閲覧)
- ・外務省 (2014), 『障害者の権利に関する条約』
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000018093.pdf> (平成31年4月5日閲覧)
- ・文部科学省 (2006), 『学校教育法』
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317990.htm (平成31年4月5日閲覧)
- ・文部科学省 (2001), 『21世紀の特殊教育の在り方 (最終報告)』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/006/gaiyou/010101.htm (平成31年4月5日閲覧)
- ・宮古市教育委員会 (2018), 『安心した就学を支える仕組み』
https://www.city.miyako.iwate.jp/kodomo/kodomo_syugaku.html (平成31年4月5日閲覧)

<巻末資料1> 「引き継ぎシート(案)」の意見検討結果

①現籍校(小学校6年生の担任を想定)

調査項目	意見	類似意見件数(件)	検討結果	改良版への反映状況
問1 「引き継ぎシート(案)」を記入した後の全体を通しての感想	「教育支援計画」や「個別の指導計画」の項目に工夫がなされているため、「引き継ぎシート(案)」との重なりが多いのではないかと。	他2件	このシートは引き継ぎに特化したシートであり、引き継ぎの際に重要と思われる情報を基本情報として項目に盛り込んだため、他様式と項目が重複しています。	その他
	障がい重複していたり、課題がたくさんあったりする場合は書ききれないのではないかと。	他1件	「簡便なシート」というねらいのもと作成しています。記入例をガイドブックに示します。	反映
	一次情報の次に二次、三次と中学校等からの引き継ぎを求められることになるのか。		「引き継ぎシート」は保護者の同意を得て作成するものであり、現籍校に連絡を取ることについての同意も含んでいます。	その他
	現在でも要録等で行われていると思うので、わざわざ統一のシートにするメリットがもっと感じられるものになるとよい。		統一したシートであれば、どの地域でも保護者と情報共有がしやすいと考えます。	その他
	特別支援の専門的な知識や経験がないので、どのような視点で記入したらよいのか判断に難しさを感じた。		特別支援教育の視点、記入方法や記入例をガイドブックに示します。	反映
	チェックはクリックだけでできるようにしてほしい。		入力方法について、円滑にできるよう整えます。(ワード版)	反映
問2 「児童についての基本情報」	主たる障がいについて、もう少し詳しく記入するところがあってもよい。	他3件	「1 児童についての基本情報」の「その他参考事項」の欄を設けました。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
	将来の希望は、児童によって記入が難しい。	他1件	「引き継ぎシート」は全ての項目に記入するものではありません。該当するもののみ記入することとします。	その他
	本人の将来の希望は欄が多い。	他1件	他の項目の欄を広げ、「本人の将来の希望」の欄を少なくしました。	反映
	関係医療機関及び関係相談機関からの助言、必要な配慮事項(心理検査の結果から読み取れる特性等)の記入欄があった方がよい。		「1 児童についての基本情報」の「その他参考事項」の欄を設けました。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
	基本情報と基礎的な情報という言葉が混在しているが違いはあるのか。		基本情報に統一します。その他の言葉の混在については、精査していきます。	反映
	基本情報であれば、学業成績、友人関係、性格、問題行動などがあると、より基本的な児童の人物像が見えてくると思う。		基本情報として必要な情報を項目に盛り込んでいます。記入例をガイドブックに示します。	反映
	知的障がいのある児童生徒の場合、就学時の通知を書く欄がほしい。		現在の様子を基本情報と考えていますので、就学時の通知は「引き継ぎシート」の項目には盛り込まないこととします。	その他
	相談時期は最新の行った日を書くか、心理検査等の日を書くか迷った。もしくは進学の就学について相談した日か、もしくはこれらの優先順位を知りたい。		相談時期の表記の仕方について、ガイドブックに示します。	反映
	担当者が複数の場合の記入例をガイドブックに示してほしい。		作成に関わる教職員が複数であっても、校内で1枚のシートを作成することとします。校内体制で複数の視点で作成していくことは必要なことですので、作成段階で話し合いながら記入することとします。	反映
	服薬について、複数の場合、欄がほしい。		2つ記入できるスペースを設けました。主たる薬品を記入するようガイドブックに示します。さらに必要な場合は、「関係医療機関」の「その他参考事項」に記入することも可能です。	反映
	在籍について記入する欄がほしい		「5学校での様子」に記入することとします。	その他
問3 「保護者からの引き継ぎ事項」	欄が狭く感じたので、改行の幅など調整したことから、もう少し広くした方がよい。		「簡便なシート」というねらいのもと作成しています。記入例をガイドブックに示します。	反映
	進路について、本人との相違があるかどうか分かっておいた方がよいので、項目として「進路」を設けた方がよい。		「進路」につきましては、その他()の欄に記入するようにします。ガイドブックに示します。	反映
	保護者の理解が得られず、保護者が策定に参画しない場合、引き継ぎシート取扱はどうなるのか。		「引き継ぎシート」の作成に当たっては、保護者の同意の下、作成することとします。引き継ぎシート作成の意義について、保護者に説明できるようガイドブックに示します。	反映
	保護者の要望が、児童本人や学校現場の実態と合っているかどうか分かるか。		「引き継ぎシート」は保護者参画のもと、作成するシートなので、話し合いの中で情報共有をしていきます。保護者との情報共有の在り方について、ガイドブックに示します。	反映
問4 「出席状況」	要録に記入してあるので、引き継ぎ資料として二度手間な感じがする。	他3件	出席日数・欠席日数の項目は、要録の項目と重複するので、その項目を削除しました。	その他

		遅刻、早退が多く、配慮事項として必要があるので、理由を記入したい。	他1件	「遅刻・早退」について、理由の項目に盛り込みました。	反映
		遅刻早退の2行を「遅刻／早退」として1行にまとめてもよい。		作成者の記入のしやすさを考え、2行とします。	その他
		「引継ぎシート」として重要な情報なので、「欠席、別室登校がみられた理由・きっかけ」の他に「その他」として登校時のパターン等も記載できるようにした方がよい。		登校時のパターンは、「5学校での様子」に記入することとします。	その他
問5	「学習上・生活上の様子」	内容項目が捉えづらい。できている基準が項目ごとに違った。	他5件	「自立活動」の内容項目を参考に作成しました。内容項目が具体的にイメージできるような文章に変更しました。ガイドブックに示します。	反映
		項目が多く、内容が重すぎる。	他1件	全ての障がい種に対応できるように、「自立活動」の内容項目を参考に作成しました。LDの児童生徒にも対応できる、記入例をガイドブックに示します。	その他
		作成時の入力について整えてほしい。	他3件	入力方法について、円滑にできるよう整えます。(ワード版)	反映
		項目を選択制にするの意義が理解できない。項目は補助資料として、記載は文章表現の方がよいのでは。	他1件	児童生徒の概要を捉えるものであることと、簡便さの面から項目を選択制にしました。	その他
		単純知的障がい、LD児はあてはまる項目がない。		「引継ぎシート」は全ての項目に記入するものではありません。該当するもののみ記入することとします。	その他
問6	「学校の様子」	指導形態が特別支援学級の時、交流学級での様子を記入したい。	他3件	「授業中」の欄に指導形態をチェックできるようにしました。	反映
		保護者の了解を得るものとしては、教諭は正直書きづらい。保護者の印をつくるのであれば、保護者自身が児童が困難としていることを書き、支援してほしい内容を記載するべきだと思う。	他2件	「引継ぎシート」は保護者と一緒に作成するシートです。学校と保護者が情報を共有しながら、今後の支援に活かしていくことができるよう作成することとします。	その他
		この項目のスペースを大きくしてもよいのではないかと。	他1件	「簡便なシート」というねらいのもと作成しています。記入例をガイドブックに示します。	反映
		授業以外の時間に、登下校、放課後を含めて記載してはどうか。		学校での児童生徒の様子を一日の流れに沿って様子を把握するため、「登下校」「放課後」の項目を設けています。	その他
		集団場面と個別では様子が違う子もいるので、個別の場面を記入する欄があってもよい。		個別の場面についての表記は、「5学校での様子」の「その他参考事項」に記入してください。記入例をガイドに示します。	反映
問7	自由意見	作成時の入力について整えてほしい。	他4件	入力方法について、円滑にできるよう整えます。(ワード版)	反映
		各校の任されている「教育支援計画」や「個別の指導計画」、保健日誌、生徒指導カード、中学校から依頼される連絡カード等の重なりをどのようにしていくか		このシートは引継ぎに特化したシートであり、引継ぎの際に重要な情報を基本情報として項目に盛り込んだため、他様式と項目が重複しています。	その他
		一次情報とある以上は、二次、三次等が想定されるが、それらの規定がないのであれば一次情報という言葉を使用すべきではない。		基本情報をもとに、現籍校に連絡を取ることができます。基本情報をもとに、現籍校に連絡を取ることについての同意も含まれています。	反映
		本人の将来の希望はあるが、保護者の将来の希望があってもよい		「2 保護者からの引継ぎ事項」に表記できるよう、ガイドブックに示していきます。	反映
		保護者の同意について、なぜ必要なのかと思った		個人情報の収集は、本人や保護者からの直接収集が原則となります。趣旨についてガイドブックに示します。	反映
		シートでの引継ぎは、これまでの様々な実践でも作成するのにかかる時間に対する効果が薄い。		基本情報に絞っているので、最低限の時間で作成が可能です。引継ぎシートの活用が円滑になされるよう、基本的な引継ぎの仕組みをガイドブックに示します。	反映
		保護者について、家庭の状況に配慮が必要な時、とても書きにくい。		保護者の同意を得ながら可能な範囲で記入していただくこととなります。	その他

②進学先（中学校1年生の担任を想定）

調査項目	意見	類似意見件数(件)	検討結果	改良版への反映状況
問1	「児童についての基本情報」		「関係医療機関」の「その他参考事項」の欄を設けました。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
	服薬はいつからなのか、また、薬品名()が小さすぎて複数あったときに入りきらない。学校に来てからの服薬のケースを知りたい。		「関係医療機関」の「その他参考事項」の欄を設けました。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
	医療や関係機関につながっていない場合があるので、その場合「疑い」という形で見立てて記入する欄があればよい。		家族の同意を得ながら可能な範囲で記入することとします。	その他
	家庭環境の欄を広く取り、準要、要保護は丸付けを付けたところがあれば参考になる。家族のことについては、教育的関心や経済状況、家族の状況も含めて別に項を設けてもよい。			

		生年月日の欄は、西暦なのか元号なのか、統一が良いと思った。		元号で記入することとします。ガイドブックに示します。	反映
		サンプルシート「下肢装具あり」とあるので、その部分に具体的な記載欄があるとよい。安全面での配慮する部分を記載する欄、事前に準備しておいてほしいことを記入する欄があるとよい。		「関係医療機関」の「その他参考事項」の欄を設けました。記入例については、ガイドブックに示します。	反映
		本人の将来の希望①中学校生活、②中学卒業の進路希望、③就職(どんな仕事に就きたいか)の項目があった方が書きやすい。		記入内容の例については、ガイドブックに示します。	反映
問2	「保護者からの引継ぎ事項」	このシートに関わり、小学校で1の部分保護者から聞き取りすると思うが、下書きとしてコピーして保護者に渡すこともあると思うが、様々な情報を目にして保護者が不安にならない配慮もあれば良いと思う。		「引継ぎシート」の作成に当たっては、保護者の同意の下、作成することといたします。引継ぎシート作成の意義について、保護者に説明できるようガイドブックに示します。	反映
		家庭でつけている方と、学校への履いを分けて書いていると見やすい。		記入内容の例については、ガイドブックに示します。	反映
		本人にとって難しいことかもしれないことを記し、その手立てを記入してもらいたい。よって、記入欄を増やす。		「保護者の要望」の欄がありますので、そちらに記入することとします。	その他
		項目にチェックのみではなく、具体的に記入するスペースがあるとよい。		「保護者の要望」の欄がありますので、そちらに記入することとします。	その他
問3	「出席状況」	「適応指導教室」や「その他」の期間があった児童はどう記入していくのか気になる。出席状況は教室、別室とし、その他備考欄表現だと分かりやすい。		別室登校等の記入欄があります。表記方法については、ガイドブックに示します。	反映
		スペースを狭くして、項目番号1と2の欄を多く取るとよい。		出席状況は大事な情報であると考えます。要録の様式と重なるの内容にしました。	その他
		出席簿上、別室登校の有無を書く形式はないので、別室登校の正確な日数は難しいと思う		可能な範囲で記入することとします。	反映
問4	「学習上・生活上の様子」	「健康」と「身体」の箇所に、食事、排泄のことがあり、重複するのは、「健康」の欄の「衣服の調節」に入るかもしれないが、一人で運動着を着ることができたりや靴の紐を結べるといったことも分かるとよい。	他1件	重複している項目は削除しました。「自立活動」の内容項目を参考に作成し、内容項目が具体的にイメージできるような文章に変更しました。各項目の内容についてガイドブックに示します。	反映
		できる場合は○、とても苦手であれば×。○×がよくない場合は、1とか2とか数字で記入。	他1件	入力方法について、円滑にできるよう整えていきます。(ワード版)	反映
問5	「学校の様子」	授業中の欄は、「座学」と「実技」と分けても良いかと感じた。		授業中の様子の記入例をガイドブックで示していきます。「座学」や「実技」の記入例も示していきます。	反映
		学校行事の参加状況について記入するところがほしい。授業の欄に、「好きな教科(意欲的な教科)、苦手な教科」についてあればよい。		好きな教科や苦手な教科は、「児童についての基本情報」に記入することとします。	その他
		授業中について、教科によって学習形態も異なることが想定されるので、その様子を記入するにはもう少し枠が大きい方がよいのではないかと支援内容が書いてあるので、配慮有りなしのレ点はいらない。		「その他参考事項」の欄を設けているので、そちらに記入することとします。	その他
		「給食の場面」の項目がほしい		支援の状況について、一目で分かるように「配慮あり」「配慮無し」というチェック欄を設けました。	その他
				「学習以外の時間」に記入することとします。	その他
問6	全体を通しての意見	最後に保護者にも同意いただくようだが、内容を小学校と保護者で作るとなると納得いくものができるか疑問である。		「引継ぎシート」の作成に当たっては、保護者の同意の下、作成することといたします。引継ぎシート作成の意義について、保護者に説明できるようガイドブックに示します。	反映
		この用紙で、保護者の同意をとるとなると、1で書いた、家庭状況とかは記入しにくくなり、表現が曖昧になりかねない。引継ぎシートとして役割が薄まるので、同意書という形で、別にとるシステムはできないか。		「引継ぎシート」の作成に当たっては、保護者の同意の下、作成することといたします。引継ぎシート作成の意義について、保護者に説明できるようガイドブックに示します。	反映
		肢体不自由の児童はやはり安全面がどうであるかが優先なので、そこを第1情報として伝えられる項目があるとよい。		「5 学校での様子」の「その他参考事項」に記入することとします。また、新たに項目として作る「1 児童についての基本情報」の「その他参考事項」に記入することとします。	反映
		特別支援学級在籍の児童は、どのくらい交流学級に入っていたかが具体的に分かる項目があるとよい。		「5 学校での様子」の「その他参考事項」に記入することとします。	その他
問7	「引継ぎシート」は、一次情報として機	一次情報として小学校が伝えたいことが伝わるかどうか。保護者の様子や家庭環境も知りたいところもある		保護者の様子や家庭環境については、「1 児童についての基本情報」の「家族関係の特記事項」に記入することとします。	その他

能を果たしているか、具体的な支援を付けることができるのか。	る。				
	診断の有無を問わない時に、診断名がないのにこのシート作成に該当した保護者の納得が得られなければ、別シートで作成することになると感じた。			「引継ぎシート」の作成に当たっては、保護者の同意の下、作成することといたします。引継ぎシート作成の意義について、保護者に説明できるようガイドブックに示します。	反映
	保護者の同意の記名と捺印が必要となると、あまり具体的に記入できない。一次資料としてならいいが、保護者には見せない資料についても、新入生を迎える時はほしいと思う。			「引継ぎシート」の作成に当たっては、保護者の同意の下、作成することといたします。引継ぎシート作成の意義について、保護者に説明できるようガイドブックに示します。	反映
	なぜ、別室登校になったのかがこれだけでは分からない。別室や欠席が極端に多いわけではないととらえるので、これからはに向けて、何が足りないのかが知りたいと思う。			別室登校や欠席については、「3 出席状況」の「欠席・別室登校がみられた理由・きっかけ」の欄に記入することとします。記入例について、ガイドブックに示します。	反映
	長い文章だと、記入する側も、読む側も負担に感じる。			「簡便なシート」というねらいのもと、本シートを開発しています。	その他
各校内での指導において、担任が年度毎に変わることが想定され、その引継ぎの際にも「校内版の引継ぎシート」が存在し、なおかつ、この「異校種間の引継ぎシート」と形式がリンクしているものだと、作成も活用もしやすいと感じた。			この「引継ぎシート」をもとに、「校内版引継ぎシート」を作成することも可能です。	その他	

③現籍校（中学校3年生の担任を想定）

調査項目	意見	類似意見件数（件）	検討結果	改良版への反映状況	
問1 「引継ぎシート(案)」を記入した後の全体の感想	各項目が大雑把で何を書いたらいいのかわかりづらい。入力しにくい様式だと思った。	他2件	記入の仕方についてはガイドブックで示していきます。入力方法について、円滑にできるよう整えていきます。(ワード版)	反映	
	中学校進学では進学を希望する学校へ調査書を提供しているが、引継ぎシートと内容的に重複するところがあり、引継ぎシートの役割として様式を整理する必要性について判断しかねる。			このシートは引継ぎに特化したシートであり、引継ぎの際に重要と思われる情報を基本情報として項目に盛り込みましたため、他様式と項目が重複しています。	その他
	高校へは、受験の段階で副申書を添付、進学先が決定すると要録の写しの送付、入学後も学校によっては引継ぎがあるので、さらに記入するものがあるのは煩雑になる。高校へは、その生徒に適した学校を選択するよう配慮していくので、相談する時点でこのシートを活用できればと思ったが、進学する高校によって必要な情報が違うので全部は使用できないと感じた。			この引継ぎシートは、学校の実情に応じて活用していただくものです。各学校によって実情は異なりますが、統一シートということで、必要な情報を項目に盛り込みました。	その他
	項目によっては、知的障がいのある生徒に書くのが難しいものがあり、少しく書きにくい。様々な生徒に対応させるには、始めからあまり細かくなくてもよいと思う。			基本情報として必要な項目と考え、引継ぎシートに盛り込みました。ある程度、項目を細分化した方が記入しやすいと考えました。	その他
	病院名や薬名等の枠が小さすぎるので大きくした方がよい。			「関係医療機関」の欄に「その他参考事項」という欄を設けました。記述内容の例については、ガイドブックに示します。	反映
問2 「児童についての基本情報」	例はあってもよいが、聴覚障がいの生徒に関しては、生徒個々によって障がいの状態や配慮事項が異なるため、自由記述の方がよい。聞こえについては、聴力レベル、聴覚の状態、補聴器か人工内耳かなどの情報も記入できる欄があればよい。全体的に記入しにくく、情報が高校に的確に伝わりとは思えない。		「関係医療機関」の欄に「その他参考事項」という欄を設けました。記述内容の例については、ガイドブックに示します。	反映	
	複雑な家庭環境の家庭では、ジェノグラム等で示すと見た目にも整理できると思う。	他1件	保護者の同意を得ながら、可能な範囲で記入することとします。	その他	
	服薬の欄がもう少し広いといい。		「関係医療機関」の欄に「その他参考事項」という欄を設けました。記述内容の例については、ガイドブックに示します。	反映	
問3 「保護者からの引継ぎ事項」	専門機関が関わっているのであれば、そこからの情報等を書く欄があるとよい。		「関係医療機関」の欄に「その他参考事項」という欄を設けました。記述内容の例については、ガイドブックに示します。	反映	
	「学習」の項目は必要ないのでは。生育歴を記入した方が、生徒の理解に役立つ。		必要な情報と考え、「学習」も項目に入れました。保護者の同意を得ながら、可能な範囲で記入することとします。	その他	
	「学習」「生活」等の項目のチェックと保護者の要望が結びつかないので、関連するように変えた方がよい。		記入例をガイドブックに示します。	反映	

問4	「出席状況」	出席状況は、調査書と重複するため必要ないと感じる。項目を起こすのであれば、適応状況として、簡単に説明するような様式がよい。 欠席、遅刻、早退、別室登校の順番が書きやすい。		重要な情報と考え、引継ぎシートに盛り込みました。	その他
				順番については、表記通りにいたします。	その他
問5	「学習上・生活上の様子」	別室登校日数が、出席日数に含まれるのかわからない 出席簿上、別室登校の有無を書く形式はないので、別室登校の正確な日数は難しいと思う。		表記方法については、ガイドブックに示します。 可能な範囲で記入することとします。	反映
問6	「学校の様子」	5項目をまとめた方がいいのではと思う。例えば、学習場面、生活場面等。 「学校での様子」というよりは「指導上の配慮事項」とした方がよい。 「本人の支援継続希望」の欄は必要ではないので、削除する方がよい。 欄が小さいので、枠をもっと大きくする方がよい。	他2件	児童生徒の様子を一日の流れに沿って確認するため、5つの場面を設定しました。 学校での様子に対する配慮事項と考えていますので、このような項目にしました。 中学校の発達段階から、自分自身にとって必要な支援を自己認識し、その支援の継続性を必要としているか、本人の希望を確認するものです。 「簡便なシート」というねらいのもと作成しています。記入例をガイドブックに示します。	その他 その他 その他
問7	自由意見	引き継ぐ内容に、現段階での生徒の「自立像」を記入する欄があればよい。自立像がそれぞれの段階で認識されると、進学先へどのようにつないでいこうとしているかが理解できる。 伝えたいことはたくさん進学先にはあるが、どの生徒にもあうようなもう少し簡潔簡単なシートの方が書きやすいし見やすいと思う。 検査の判定結果、措置等の欄もほしい。不登校、障がい種別がいろいろ混ざっているのだから、それぞれ別々にシートを作成した方がよい。		「1 生徒についての基本情報」の「本人の将来の希望」の欄に「本人の自立像」を記入できるように、記入例をガイドブックに示します。 「簡便なシート」というねらいのもと作成しています。児童生徒にとって必要な基本情報を盛り込んだシートになっています。 現在の様子を基本情報と考えていますので、検査の判定結果や措置等は「引継ぎシート」の項目には盛り込まないこととします。	反映 その他 その他

④進学先（高等学校1年生の担任を想定）

	調査項目	意見	類似意見件数(件)	検討結果	改良版への反映状況
問1	「生徒についての基本情報」	医療との情報共有(所見、通院、手帳等)医療機関の記入スペースを広くしたい、服薬の所に自己管理ができるという記述がほしい、主治医や相談機関担当者からの指示がある場合、指示事項を記入できるスペースがほしい。 苦手なことはいっぱいあると思われるので欄をもっと大きくした方がよい。 支援の必要な項目があってもよい。 家族構成はあった方がよい	他7件 他1件 他1件	「関係医療機関」に「その他参考事項」という欄を設けました。記述内容の例については、ガイドブックに示します。 欄を広げました。 「5 学校での様子」に記入することとします。	反映 その他 その他
問2	「保護者からの引継ぎ事項」	保護者の支援を具体的に記述した方がよい。記入欄を大きくした方がよい。具体的にどのような配慮を求めているかが分かるような内容がよい。 チェック項目に、人間関係を加えてはどうか。 保護者が全て話すかどうか疑問に感じる。保護者は別用紙にした方がよい。 可能であれば、家事都合の細かい内容の記述がほしい 要望は複数の項目にまたがることが多いので、〇〇面、〇〇面と分けて書けるようにした方が楽である。 引継ぎ事項なのに、「要望」となっているのが違和感がある。		どのような内容を記述すればよいのかガイドブックに示します。 「対人関係」を挿入しました。 「引継ぎシート」の作成に当たっては、保護者の同意の下、作成することといたします。引継ぎシート作成の意義について、保護者に説明できるようガイドブックに示します。 保護者の同意を得ながら可能な範囲で記入することとします。 記入例については、ガイドブックに示します。 項目の題名を「保護者の要望」と変更しました。	反映 反映 その他 反映 反映
問3	「出席状況」	別室登校の記述方法が曖昧。保健室・別室にチェックした場合の出席日数と別室登校の記入の仕方がわかりづらい。出席日数のなかに別室登校の分の日数を含むという趣旨を書いた方がよい。	他3件	記入の仕方について、ガイドブックに示します。	反映

		遅刻、早退が多く、配慮事項として必要があって理由を記入したい。	他1件	重要な情報と考え、引継ぎシートに盛り込みました。	反映
		場所を記入する欄がほしい。	他1件	「引継ぎシート」の項目に示しています。	その他
		1年生の出席状況も記入した方がよい。		引継ぎ時の学年を記入するようお願いいたします。	その他
		保健室利用の際の様子を記入したい。		「5 学校での様子」に記入することとします。	その他
		欠席理由にも日数を入れた方がよい。		理由のみで記入する方向で考えています。	その他
		別室での指導内容を記入したい。		「5 学校での様子」に記入することとします。	その他
問4	「学習上・生活上の様子」	できないことにチェックをした方が支援しやすい。「できる」の項目なので、項目全て「～できる」にした方がよい。	他2件	入力方法について、円滑にできるよう整えます。(ワード版)	反映
		個別性が高いと思われるので、自由記述の欄を設けた方がよい。	他1件	個別の場面についての表記は、「5 学校での様子」の「その他参考事項」に記入することとします。	その他
		健康項目について健康に関する自己管理ができると記載されているが、どのように捉えてよいか迷う	他1件	「自立活動」の内容項目を参考に作成し、内容項目が具体的にイメージできるような文章に変更しました。各項目の内容についてガイドブックに示します。	反映
問5	「学校の様子」	「集団場面」の項目が分かりにくい。	他3件	「集団行動」という表記を「集団活動」に変更します。	反映
		集団行動の様子も必要と思う。		「集団活動」の欄に記入することとします。	その他
		個別性が高いと思われるので、自由記述の欄を設けた方がよい。	他2件	個別の場面についての表記は、「5 学校での様子」の「その他参考事項」に記入することとします。	その他
		指導形態は様々なので、どこか特定ではなく、混合の時の書き方があればよい。	他1件	「授業中」の欄に指導形態をチェックできるようにしました。	反映
		もっと具体的であるとよい。具体的な支援をするには原因が必要、また、支援した結果どうなったのかの記述が必要。		学校での児童生徒の様子を一日の流れに沿って様子を把握するため、「登下校」「放課後」の項目を設けました。	その他
		読む、聞く、書く、計算することについて得意、不得意等の項目があるとよい		「1 生徒についての基本情報」に記入することとします。	その他
		本人だけでなく、保護者の希望があるとよい。		「保護者からの引継ぎ事項」に記入することとします。	その他
問6	全体を通しての意見	保護者の対応、様子についての項目があるとよい。自由記述を設けて、本人の様子を担当の言葉で伝えることが大切。		いくつかの項目に記述欄がありますので、そちらに記入することとします。	その他
		学校以外で活躍している欄がほしい。(習い事など)		「1 生徒についての基本情報」の好きなことに記入することとします。	その他
		チェック欄が記述内容と重複していたり、沢山あったりして見にくい。記入に迷う内容がある。		入力方法について、円滑にできるよう整えます。(ワード版)	反映
問7	「引継ぎシート」は、一次情報として果てたしているか、具体的な支援を検討するきっかけになるものか。	児童生徒や保護者の困り感、対象児童生徒に対して、周囲の子供達の対応等知りたい。		「1 生徒についての基本情報」「2 保護者からの引継ぎ事項」に記入することとします。	その他
		中学校側が認識していない生徒で支援を要する生徒が見受けられるので、そのような生徒の把握に時間がかかる		運用の仕組みについて、ガイドブックに示します。	反映
		受験時に調査書に中学校がきちんと記入し、高校に提出することを義務づけるとよいと思う。			
		記入側の負担があるように感じる。内容を活かしつつもう少し簡素なものにした方がよい。または、調査書を有効に活用できるようにした方がよい。		簡便な引継ぎシートを目指しており、生徒の概要を把握する上で必要と思われる情報を盛り込みました。	その他

①引継ぎシート【小学校版】

引継ぎシート【小学校版】

作成日：令和 年 月 日 学校名： _____ 小学校 校長： _____ 印
 作成者： _____ 印

1 児童の概要 【担任・特支教育 Co・養護教諭・その他()】

児童氏名		性別	生年月日	
ふりがな 氏名			年	月 日
関係医療機関		関係相談機関(者)・支援機関(者)		
病院名		機関名		
主治医		担当者		
診断名		相談時期		
診断時期		その他参考事項		
服薬(薬名)	有()・無	有()・無	手帳の所持状況	
その他参考事項			<input type="checkbox"/> 身体障害者 <input type="checkbox"/> 療育 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉	
興味・好きなこと				
苦手なこと				
本人の将来の希望 (進路含む)				
家族関係の特記事項				

2 保護者からの要望

学習 生活 対人 発達 健康 その他()

3 出席状況

<input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> 保健室・別室 <input type="checkbox"/> 適応指導教室 <input type="checkbox"/> その他()						
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
保健室・別室・適応指導教室						
遅刻						
早退						
欠席・遅刻・早退・別室 登校がみられた理由・きっかけ						

4 学習上・生活上の様子 (できているところにレを記入してください。困難さが無い場合は、全てにレを記入してください。困難さについては、項目の1・2・5の欄に自由に記入してください。)

健康	<input type="checkbox"/> 生活リズムが整っている <input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣(食事・睡眠・排泄)が身に付いている <input type="checkbox"/> 衣服の調節ができる <input type="checkbox"/> 清潔の保持ができる <input type="checkbox"/> 自分の病気の状態を理解できる <input type="checkbox"/> 自分の病気の状態を自己管理できる <input type="checkbox"/> 健康に関して自己管理できる <input type="checkbox"/> 健康状況に伴う困難さの状態や必要な支援について他者に伝えることができる
心理	<input type="checkbox"/> 情緒が安定している <input type="checkbox"/> 状況に応じて不安や緊張を軽減する <input type="checkbox"/> 自分の困難さの状態を理解したり、受容したりしている
人間関係	<input type="checkbox"/> 他者との関わりを好む <input type="checkbox"/> 他者の意図や感情を理解している <input type="checkbox"/> 場に応じた適切な行動をとる <input type="checkbox"/> 自分の得意なことや不得意なことを理解している <input type="checkbox"/> 集団の中で状況に応じた行動ができる
環境	<input type="checkbox"/> 自分の感覚を有効に活用できる <input type="checkbox"/> 自分の感覚の過敏さや認知特性について理解している <input type="checkbox"/> 補助機器を活用して自分の視覚・聴覚・触覚・嗅覚等の困難さを補っている <input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用して、的確な判断や行動ができる
身体	<input type="checkbox"/> 姿勢保持ができる <input type="checkbox"/> 上肢・下肢の運動や動作がスムーズである <input type="checkbox"/> 補助的手段を活用して姿勢保持や運動・動作ができる <input type="checkbox"/> 学習・作業のための基本的動作(書字・描画等)が身に付いている <input type="checkbox"/> 日常生活に必要な移動能力がある (※車椅子等の補助的手段を活用する場合は、右欄に記載すること) → ()
コミュニケーション	<input type="checkbox"/> 相手の意図を受け止める <input type="checkbox"/> 自分の考えを伝える <input type="checkbox"/> 事物や現象、自分の行動に対応した言語を身に付けている <input type="checkbox"/> 話し言葉を使ってコミュニケーションができる <input type="checkbox"/> 文字・記号、機器、手話等を活用してコミュニケーションができる <input type="checkbox"/> 場や相手に応じたコミュニケーションができる

5 学校での様子

指導形態				
場面		様子等	支援内容・配慮事項	本人の支援継続希望
<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> その他 ()				
登下校時 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>				
授業中 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> その他			
学習以外の時間 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>				
集団活動 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>				
放課後 配慮あり <input type="checkbox"/> 配慮なし <input type="checkbox"/>				
その他参考事項				

この「引継ぎシート」をもとに、【 】と情報を共有し、その後に【 】が現籍校、関係機関等に連絡をとり、学校生活に必要な情報を共有することに同意します。

令和 年 月 日

児童氏名

保護者氏名

印

②引継ぎシート【中学校版】

引継ぎシート【中学校版】

作成日：令和 年 月 日

学校名： _____

中学校

校長： _____

印

作成者： _____

印

1 生徒の概要

【担任・特支教育 Co・養護教諭・その他()】

生徒氏名		性別	生年月日	
ふりがな 氏名			年	月 日
関係医療機関		関係相談機関(者)・支援機関(者)		
病院名		機関名		
主治医		担当者		
診断名		相談時期		
診断時期		その他参考事項		
服薬(薬名)	有()・無	有()・無	手帳の所持状況	
その他参考事項			<input type="checkbox"/> 身体障害者 <input type="checkbox"/> 療育 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉	
興味・好きなこと				
苦手なこと				
本人の将来の希望 (進路含む)				
家族関係の特記事項				

2 保護者からの要望

学習 生活 対人 発達 健康 その他()

3 出席状況

	<input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> 保健室・別室 <input type="checkbox"/> 適応指導教室 <input type="checkbox"/> その他()		
学年	1年	2年	3年
保健室・別室・適応指導教室			
遅刻			
早退			
欠席・遅刻・早退・別室 登校がみられた理由・きっかけ			

